

石炭鑛業 互助會報

第四卷・第一號

昭和十四年一月二十日發行

昭和十二年四月七日第三種郵便物認可 (毎月一四二十日發行)
昭和十四年一月十七日印刷
昭和十四年一月二十日發行

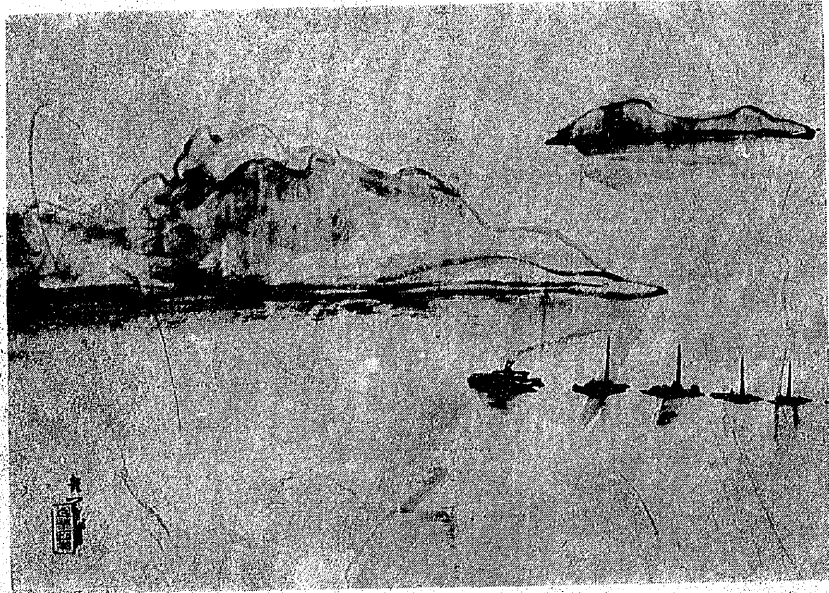
目次

(卷頭言) 祭政一致の皇道政治	鳴	(一)
年頭所感	柏村	(二)
長期建設下に於ける石炭業者の任務	野上辰之助	(三)
日滿支一体の石炭需給統制計畫を樹てよ	武内禮藏	(四)
新東支の燃料問題	大島義清	(五)
滿洲北支の皇軍慰問と炭田視察	赤司有三	(六)
参考資料	星物吉	(七)
試掘出願から鑛業權の生れる迄の經過	小池四郎	(八)
統制への提言		(九)
鑛害賠償及調停規定要綱		(一〇)
滿支石炭新市場に今後如何に對處するか		(一一)
石炭船運賃		(一二)
常識大學講座		(一三)
報		(一四)
藤井鑛業が日滿鑛業と合併其他		(一五)
本會記事		(一六)
重役會並に理事		(一七)
互助會地方部會		(一八)
互助會肥前支部諸行事		(一九)
石炭鑛業權設定	(福岡鑛山監督局管内)	(二〇)
炭界日誌	白双生	(二一)
互助會文藝		(二二)

石炭鑛業互助會

石炭鑛業互助會發行

一月號



勅題

朝陽映島

若松

山本平八氏試筆

炭坑關係者各位の
御安全を祈る

福岡市薬院大通三丁目八一番地

福岡石炭商會

電話福岡西②
二三一九番
四三四二番



—◁ 言 頭 卷 ▷—

祭政一致の皇道政治

政治の根幹は道徳に在り、古來我國歴代の 天皇は、神ながらの道を行ふ政治の要諦とし、私心を混へずして道を行ふ、即ち神の御心に從つて國を治めることが皇道政治の本質である。

明治天皇は之を天地の公道と宣へり、實に敬神崇祖は日本の常道にして、萬邦無比の國体の存する所以も亦茲に存すと謂ふべきである。

平沼首相は施政劈頭に方りて、我國の政治は祭政一致の神道なりと喝破せるは、洵に至言にして、久しくも歐米のデモクラシー思想に歪曲せられし政治思想も、平沼宰相に依りて、日本獨特の皇道政治に復歸するものならむ乎。

祭政一致の政治を行ふには、先づ全國民の敬神思想を喚起すべきである。則ち即時每朝全同胞に、伊勢神宮、皇城を遙拜せしめ、以て神ながらの道に從ひ、神ながらの日本人として、各自その業務に勵しむべきである。

今や支那事變も長期建設戦に入り、我が忠勇義烈なる皇軍は、暴將蔣介石に最後の止めを差すと同時に、支那四億の民衆を塗炭の苦より救ひ、大亞細亞建設の大偉業に向つて邁進しつゝある。

而して祭政一致の皇道政治は、萬民輔翼の政治にして又萬民撫育の政治である、假令國体を辨へざる不忠不臣の徒に對しても、之を諭し、之を救はんとするものである。教化訓育は是れ神道の仁にして、宏大無邊なる惟神道は、彼のフアツシヨ專制と靈泥の差あり、八紘一字の大理想を顯現せむとする我國獨特の政治である。

(鳴 濤)



年頭所感

福岡鑛山監督局長 柏 村 稔 三

茲に昭和十四年の新春を迎ふるに當り、謹みて聖壽の萬歳と皇運の無窮を冀念して已みません。

顧みますれば、昨年七月暴支膺懲の師を起してより以來、一年有半御稜威の下我忠勇なる皇軍將兵各位の勇戦奮闘によりまして益々其戰果を擴大し敵の重要據點たりし廣東並に武漢三鎮を攻略し事變は愈々新段階に入りましたことは洵に御同慶の至りに堪へません。我皇軍將兵各位の御奮闘に對し滿腔の謝意を表すると共に其武運長久を御祈りし併せて今次事變の爲尊き犠牲となられました名譽の英靈並に其遺家族各位に對し衷心より敬意を表する次第であります。

事變勃發以來我鑛業界は最も著るしい影響を蒙りましたが幸ひにして業界各位の眞摯なる御努力によりまして無事今日に至ることを得ました。殊に各種産業の原動力をなします石炭鑛業に於きましては事變發生と共に炭礦勞務者中よりも多數の應召者を出し勞働力は極度に不足し生産用資材の配給不充分等の原因も之に加はりまして増産計畫遂行は勿論現在の生産力の維持すら困難な状況にあつたのであります。こゝに於きまして此未曾有の勞働力不足難を緩和する爲の應急對策として就業時間の制限を緩和し保護鑛夫の深夜業と坑内就業を許可する等諸般の對策を講じ遺憾なきを期したのであります。

すが尙不充分でありますので當鑛山監督局は一昨年十二月五日を期して管下全石炭山に對し鑛業報國運動を起し鑛業報國精神を昂揚し勤勞精神の作興、生産管理の改善、作業技術の向上を圖り併せて健全なる勞働力の維持培養を策し眞に勞資一體の實を擧げ時艱克服を期したのであります。

幸ひにして事業主並に従業員各位の絶大なる御援助と眞摯なる御努力によりまして豫期以上の好成绩を挙げ得ましたことは洵に感謝に堪えないところであります。殊に管内事業主及従業員各位の愛國的熱情の迸る所、單に職場を通じて御奉公するを以て足れりとせず、更に進んで皇國日本の姿を世界に顯揚するに必要な武器を皇軍の手に獻納せんとの議起り勞資一體となり相互に醸出し陸海軍に軍用飛行機各二機宛及陸軍に對し「トラック」、「サイドカー」、「毛布等」を獻納し得ましたことは洵に感激の外はありません。

此の意氣と熱の赴く所勞働力や資材の不足にも拘らず昭和十三年度に於ける出炭高は昭和十二年に比し約六分の増加を見るに至り増産豫定額にはやゝ足りませんでした。我が國の石炭需給を充たし得たのであります。

然しながら石炭需給の將來に就いて考へて見ますれば聖戰遂行の直接關係ある軍需工業及製鐵事業の劃期的擴張、人造石油事業の興起、更生支那の長期建設の爲に必要な生産力の擴充強化等を始めとし各種産業の發展に伴ひ我國石炭の需給は近き將來に於て著るしき増加を來すことは明かでありまして政府に於きまして民間團體とも相協力し増産計畫を樹立し之が對策に遺憾なきを期すると共に從來動もすれば石炭配給に不合理な點がありましたので石炭配給の合理化、消費の規制をも圖らうとして居るのであります。尙石炭山に於きまして從來最も頻發しました災害は右に述べましたやうな増産計畫の強行並に諸資材の配給不足に基づく種々の障得にも拘らず昨年度に於きましては著るしく減少を示しました事は誠に喜ばしい次第でありまして業者各位の今後に於ける一層の御努力を切望して已まないところであります。

其他の鑛山に就きましては鑛物資源は軍事上並に産業上の基礎的資材たるものにして其増産を圖るは現下の時局に鑑み

特に必要でありますので政府は昨年議會の協賛を経ました重要礦物増産法其他の法令を實施し其増産に遺憾なきを期して居りますが殊に金が現代に於ける國際貸借の唯一の決済手段であり、然も事變發生以來軍需資材並に生産力擴充資材の輸入の激増を見、他面輸出貿易は海外に於ける一般的不況、排日貨、國內物價の昂騰により未曾有の不振を示しましたので政府は産金法を制定し、日本産金振興株式會社を創立し金融の便を圖り、大いに産金の奨励に努めて居る次第であります。一方當嶺山監督局に於きましても昨年九月一日より全金屬山及非金屬山に對し石炭山に於けると同様礦業報國運動を起し勞資一體産業報國に邁進しつゝあるであります。

翻つて今次聖戰の本質を見まするに歐米依存、容共抗日を指導精神とする暴戾蔣政權を徹底的に膺懲し之を潰滅せしめ眠れる支那民衆に正しき道を教へ我帝國と共存共榮の實を擧げ得べき新政權をして更生新支那を建設せしめ以て日滿支の三國が相協力し眞に一體となつて東亞に於ける新秩序を確立すると共に全人類に倫理的道義的世界觀を體得せしめんとするにありまので武漢三鎮の陥落により軍事行動が一段階を告げまして事變は漸く長期建設の新段階に入りましたのであります。事變は愈々終局に近づいたと誤解してはなりません此の長期建設こそは眞に容易ならぬ難事業でありまして今後果して幾何の歲月を要するや全く不明であります。殊に今事變發生以來盟邦獨逸、伊太利を除く歐米列強は何れも機會あることに我行動を妨害せんとしてゐるのであります。内外の情勢今日程多事多難なるはないのであります。

然しながら如何に列強の妨害があらうとも如何に長期建設が難事業であり長年月を要するとも事變有終の美を現はしめることは我等に負荷された尊き大使命であり之こそ子々孫々に遺すべき輝かしき遺産であります。

幸ひにして我國民にして克く堅忍持久盡忠報國の至誠を以て終始一貫事變所期の目的を達成し得ました曉にはその時こそ帝國は名實共に東亞に於ける盟主即ち安定勢力として世界に雄飛し得る時でありませう。

惟ふに近代戰は單に武力戰たるに止まらず政治經濟思想等凡ゆる國家の總力を戰爭目的の爲に動員せねばならぬ、所謂

國力戰でありまして殊に經濟力の消長は戰爭遂行上に至大の關係を有するものでありますから之が培養強化を計ることは喫緊の要務であります。故に業者各位に於かれましては國家より御預かりした産業の國家的使命を體し事業自體の改善を圖り事故絶減を期すると共に己が雇傭する従業員に對して卒先垂範の實を擧げて勞務者の生活を刷新し物資を節約し貯蓄の實行に努めしめ銃後戰士としての矜持を把持し以て礦業報國の使命を全ふされんことを切望して已みません。



年の頭辭

長期戰建設下に於ける

石炭業者の任務

石炭礦業互助會會長 野上辰之助

事變發生以來既に十八閱月、茲に戰勝第二の新春を迎ふるに當り、謹んで聖壽の萬歳を唱和し、皇室の御繁榮を慶祝し奉り、同時に新東亞建設の聖戰に勇戰奮闘、偉大の戰績を擧げられつゝある皇軍將士の勞苦に深甚の感謝と敬意を表し奉る。

顧るに去る一年間に於て我が無敵皇軍は海、陸、空共に其の戰績、往きて可ならざる處なく、遂に敵軍最後の據點とも謂ふべき武漢三鎮を陥落せしめ、一方彼に對する第三國軍需輸送の根據地たる廣東も殆んど同時に完全なる占據を行ひ、蔣政權を送るに事實上の地方政權に迫窮し、支那全土の大半を我が勢力下に置くに至つた。

尙支那民衆の輿望と我が皇軍の掩護に依つて成立した臨時、維新兩政權は順調なる成長を見、東亞永遠の平和確立の爲に益々其の機能の發揮をなしつつある。

然し英、米、佛並に蘇聯等第三國は援將の迷夢未だ覺めず、特に蘇聯の如きは支那共産黨を操り國民黨の完全赤化工作に狂奔、軍事的及び思想的に邊境地域の支配を確立し、進んで軍事、思想兩ゲリラ戰術により我聖戰の目的達成を妨害せんとしてゐる。隨つて蔣政權の地方政權化により事變は一應眞の難局を克服したりと雖も終局に近づいたのではなく、更に第二、第三のより大なる困難が前途に横はつてゐる事を覺悟し我々は物心兩方面に亘る國家總力の發揚に努めなければならぬ。

惟ふに新春に於ける當面の困難は過去一年有半に亘つて占據したる廣大なる地域に對する政治的、經濟的、文化的の諸建設である。而して之は一朝一夕にして成し遂げられるものでなく、相當長期に涉ることを覺悟しなければならない。特に之に要する物資は實に莫大なるものであつて、本年度に於ては一層の巨額消費が繼續せらるゝであらう。

破壊せられたる産業、文化諸機關の復舊、再建に要する諸資材供給は現地に於て其の多くを期待する事を得ない。其の多くは我國の輸出に俟たなければならない。隨つて長期建設下に於ては、國內の生産力の擴大及び占據地域に於ける天然資源の積極的開發は最も急を要する切實なる當面の問題であつて、而して之は我々産業部門に携はる者の努力に依つて始めて解決せらるゝものである。年を新たにするに至つて益々其の責務の大なるを感ずるものである。

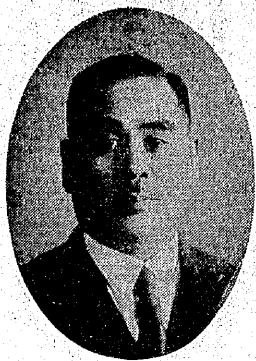
顧るに我々石炭業者は事變勃發するや、石炭鑛業が事變下の産業に於て占むる基礎的使命を能く認識し、生産力の擴充と増産に努力し、併せて需給の圓滑と公正なる炭價の維持に留意し國策への協力に邁進して來た。幸にして軍需産業始め一般的諸工業に對し不便、不足を感ぜしめる事なく新春を迎ゆるを得た事は欣快に堪へない次第である。

然し石炭の需給は益々増大する見込なれば、更に緊押一番國內資源の開發は勿論、我々が永年に亘つて得たる石炭開發

上に於ける力を大陸に伸ばし、新支那經濟建設に貢獻を契ふの覺悟を必要とする。

幸にして石炭鑛業互助會及互助會石炭株式會社も年を重ねるに従ひ、會員並に所屬炭坑の急激なる増加を見福岡縣、佐賀縣、長崎縣、山口縣に於ける昭和系以外の諸炭坑の殆んど全部を抱擁するに至り昭和と共に國策的炭界統制の完璧を期すことに邁進するを得るに至つた。之は昨年度に於ける會員始め職員の一一致協力の賜である。

本年も一層努力して會並に會社の發展を期することにより長期建設下に於て與へられたる炭業者の國策的任務を果すことに努力を惜まざることを希望するものである。



日滿支一體の石炭 需給統制計畫を樹てよ

石炭鑛業互助會理事 武 内 禮 藏

地軸一轉して茲に皇紀を閉すること正に二千五百九十九年、昭和聖代に入りて既に第十四年の新春を迎ふ。

仰ぎ見れば、上には萬邦無比、萬世一系、金甌無缺の聖君を戴き竹の園生に瑞雲棚引く、皇室の彌榮は我等一億の赤子欣喜措く能はざるところである。

伏して見れば神武天皇の御東征以來、未だ曾つて外國の侮を受けたことなき國土に、三千年來傳統的に涵養せられたる

忠孝兩全、忠勇義烈なる國民が八紘一宇の大理想に向つて邁進しつゝある。

支那事變も勇猛果敢なる皇軍の快進撃により北京、上海、南京、徐州、廣東、武漢三鎮を攻略して、國民政府は一地方政權に墮し、北支には北京に臨時政府、中支には南京に維新政府成立して着々機構を強化しつゝあり廣東、武漢三鎮を中心として防共親日の新政權を樹立して近く中央統一政權誕生の運動を續けつゝあり、今や事變は第四期戦に入り長期建設の第一歩を踏み出しつゝある。

併しながら古來「馬上天下を取るは易く、馬上天下を治むるは難し」と謂ふ。換言すれば破壊は易く、建設は難しいのである。吾人は新春を契機としてより大なる決心と覺悟を以て此の難局を處理すべきである。

事變が勃發してちようど一年六ヶ月を経過した。そして我が經濟界は次から次に統制強化された。だがこれ迄の統制は何れも應急的な處置に過ぎなかつた。資金統制にせよ、物價抑制にせよ或は又貿易振興にせよ充分に検討を加へて居る餘裕がなかつた。たゞ其の儘に放任して置けば物價は暴騰する、國際收支は悪化する、それでは長期戦に即應することが出来ないので拙速主義でも應急對策として矢繼早に統制を行つたのであるが眞の統制經濟は是から本格的となるのである。

あらゆる産業の原動力であり、推進力である石炭界も昨年五月商工省燃料局長より全國の各商工會議所、昭和石炭、互助會石炭の各販賣統制會社、東京、大阪、名古屋等の石炭協會、其他各關係團體に左の二點に就いて諮問した

(一) 石炭ノ確實且ツ圓滑ナル配給ヲナシ、以テ需給ノ調整ヲ圖ルニ必要ナル具體的方策

(二) 炭價ヲ適正ニ維持セシムル爲ノ具體的方策

右の諮問事項に對する回答は六月末迄に燃料局に到達したので政府當局は戦時体制下に於ける長期戦に對應する爲燃料問題をあらゆる角度から検討して需給の圓滑を圖る方針にて、先づ軍需生産力擴充に即應する爲最も基礎原料たる石炭の

生産及配給の徹底的合理化を急ぐ可く商工省物資調査局第一部に石炭生産統制協議會並に石炭配給統制協議會を新設し、政府、生産者代表及需要者代表から委員を選任して石炭の生産配給を一貫して配給統制計畫を樹て、次に炭價抑制の爲九月一日輸出入品臨時措置法に基き昭和石炭に對し標準値より約一割見當の引下命令を發し、更に九月十九日附官報を以て石炭配給統制規則を公布して十月一日より實施して軍需第一主義に則り、軍需用原料炭の供給を確保し石炭の配給統制の實施と共に配給調整上必要なる供給方法、貯炭についても必要な命令をなし、輸送、貯炭を合理化するなどあらゆる點に於て統制を強化しつゝあるが今後は日滿支一体の需給統制計畫を樹立すべきである。

従來我國の石炭需給調整は内地、外地（南樺太、朝鮮、臺灣）及滿洲を二ブロックとした需給計畫を樹て、居るが滿洲に於ては撫順炭礦以外に阜新、北票、復州、密山等の大炭田が次々と滿洲炭礦會社の手によつて開發せられたるも、滿洲國內に於ける諸工業勃興の爲國內需要も著しく増加したるを以て内地輸入は多くを期待出來ざる現狀にあり、北支、中支は既に戦火収まり、半官半民の北支開發會社も創立せられたるを以て速かに此の方面の資源開發に着手すべきである。

殊に山西、山東及河北省の炭田は支那の中でも最も豊富の炭量を藏し、鐵、其他の金屬礦量にも富めるを以て我國の資本、技術を提供して之を開發し日滿支一体の經濟ブロックを結成して石炭の圓滿なる需給計畫を樹立すべきである、而して之が具体化は早急に期待し得るものにあらず正に民族百年の大計に基いて策謀さるべきである。

現在我國に於ける石炭埋藏量は未だ正確なる調査は行はれて居ないが先年商工省の調査に依れば内地約百五十億噸で、之に領土即ち樺太、朝鮮、臺灣等を假りに四、五十億噸と見て合計約二百億噸であるが北支五省の石炭埋藏量は支那實業部の調査に依れば一千三百二十八億噸にして支那二十一省の五六%を占めて居る。就中山西省のみにて二千二百七十億噸を占めて居る状態である。又別な方面の調査に依れば山西省だけでも無慮七千四百十三億噸の埋藏量ありと稱せられて居る、兎に北支に於ける石炭埋藏量が極めて豊富であることは衆論の一致するところである。加之北支の石炭は發熱量七

、〇〇〇以上の瀝青炭並に無煙炭を以て大部分を占めて居るが是等の石炭は我國に於て最も缺乏して居るので非常に要求せられて居るところである。

這般我等石炭鑛業五助會は會員より二十名の團員を募り滿洲並に北支、中支に皇軍慰問並に炭田視察團を派遣して親しく第一線の將兵を慰問し、撫順、大同、井陘等の各炭礦を視察したが現地に行つて特に痛感したことは

(一) 現在の情勢では確固不動の見透しをつける事は不可能なれば速かに資源の開發に着手して今後の情勢の推移に即應して臨機應變の處置をなすべきこと

(二) 炭坑は炭坑、鐵鑛其他とも各實際の専門業者を現地に派遣して開發に従事せしむること

(三) 炭礦内の諸條件は満點なるも積込設備、鐵道の敷設、港灣改修等輸送機關不完全なれば現地の軍當局と折衝して速かに之が完備を圖ること

翻つて内地及領土に於ける石炭の需要は長期戦体制に依つて拍車をかけられ重工業、輕工業、化學工業を初めとして液化原料等累年幾何級數的に増進しつゝあり。茲に於てか今後益々増大する見込なれば内地領土は固より滿洲、北支の新坑を開發し日滿支一体の需給計畫を樹て國防上、産業上重大なる使命を有する石炭の圓滑なる需給調整を圖るは吾等統後産業人の責務にして鑛業報國の所以であると考えらるものである。



新東亞の燃料問題

日本石炭の缺點・人造石油の將來

工學博士 大 島 義 清

資源に恵まれざるわが國において發電用水力と石炭は例外に屬するものである。しかしこの兩者とも比較的のものであつて發電用水力とその經濟的に有利なる主要水系の多くはすでに開發し盡くされた状態であるが、本邦の河川は電力大需要期たる冬季において水量少く、夏の小需要期に増水する缺點がある。石炭も總埋藏量においては意を強ふるに足るが質においては決して優良なりとは稱し難く、またその層厚においても一炭田の埋藏量においても満足すべきものではない。

本邦の石炭埋藏量は内地百八十億噸、朝鮮三十億噸、樺太三十五億噸、臺灣四億噸、合計約二百五十億噸と報ぜられて居るが、これは決して實在の保證附のものでなく、況んや採掘の能否を保證せられてゐるものではない。當事者の見る所は實收可能な炭量を約八十五億噸と推定してゐるが即ち全埋藏量の約三割五分に相當するものが實際に使用し得るものである。

わが國はかつては石炭の輸出國であつて、大正の中頃までは毎年二、三百萬噸の輸出超過を例として來たが大正の末期から入超に轉じ、昭和十一年における全日本の數字は入超實に四百萬噸に達し内地のみを見ても輸出百十萬噸、輸入四百四十萬噸と報ぜられてゐる。

觀つて我が國の石炭需要状況を觀るに、全日本に於ける昭和十一年の總量は五千五百万噸であつてその内生産量は四千八百万噸である。臺灣は殆んど自給自足であるが（出炭百七十五万噸）樺太は二百萬噸を出炭してその五割を消費し殘量を移出してゐる。しかるに朝鮮は需要三百五十万噸に對し出炭は僅かに二百三十万噸であつて、不足分を輸入と移入に仰いでゐる。本邦内地に於ては消費總量四千三百五十万噸に對し出炭は三千九百万噸であるから、差引不足約四百五十万噸はこれを輸入に俟つたわけである。

石炭輸入超過の原因は埋藏量の不足によるものでなく、また出炭能力の不備にのみ歸することは出來ず、或は經濟的理山にのみ基づくものではない。從來の入超原因の一部は特殊事情の下にある撫順炭の輸入を指摘し得るがこれは輸入と稱すべきものではない。石炭の輸入を余儀なくせられるものは實に品質上の要求から來るものであつて、即ち用途上適當な品質を持つ石炭が本邦に存在しない点に起るのであるから、その量は今後その輸入に依存するのやむを得ないものである。

石炭の品質は消費側の要求から起るのであつて、あるものは灰分少く熱量大なる石炭を望み、他のものは焔の長短において要求を異にするが、またある方面では焔よりも熱量よりも結着性の大小のみを絶対に條件とする。昭和十一年における内地消費炭四千三百五十萬噸中、いはゆる原料炭と稱せられる製鐵、製鋼、ガス、コークス機械製作等の重工業方面の消費に向けられた石炭の量は約一千萬噸であるが、そのうちガス及コークス用炭は約六百万噸である。

製鐵一噸を造るに要するコークスは約一噸であるから石炭としては約一噸半を必要とする生産擴充計畫による製鐵七百五十萬噸の生産に對してはコークス原料炭約一千二百萬噸を要するが、その供給は如何なる方法によるべきであらうか。

昭和十一年中におけるコークス用炭約六百万噸中三割五分は主として北支および滿洲からの輸入であつて、その他は不完全ながら九州および北海道の石炭を使用して來たのであるが、本邦の石炭はその所在の内地外地を通じて良質のコーク

ス原料に乏しい實情である。從來は夕張、三池、二瀬その他をもつてコークス用炭に供してゐるが、製鐵用としてはいづれも多大の欠點があるために北支から開平、中興等の輸入を仰いで來てゐるのであつて、本邦の石炭埋藏量が比較的豊富であり、出炭能力に於ても特に不足はないに拘らず、最近入超の増加を來す理由の大部分はこゝに存するのである。

滿洲國には從來本溪湖炭のみが優良なるコークス用原料炭として知られてゐたが、最近に密山炭もまたこれに比すべき良質なることが判明し、すでに日本製鐵會社の清津工場は密山炭を使用する計畫であると報せられてゐるのみならず、東邊道に於ても亦優良にして埋藏量大なるコークス用炭が発見せられ今やその開發が急がれてゐる。開平及中興の兩炭はすでに折紙附のものであつて、採炭設備の擴張と、埠頭施設の充實とに依つて多量のコークス用炭を確保し得る見込は完全である。

滿洲事變を契機として、經濟方面においても、産業方面においても日滿ブロック體制の確立を見た以上、滿洲國からの物資輸入はこれを他の國からのそれと同一視する必要は消滅したのみならず産業上立場から見ても何等の差別を要せず、人的、物的の兩資材と資本とは一體となつて適地に彼此融通し得るやうになつたことは、邦家のために、誠に慶賀すべき所である。北支、中支、南支各方面も事態において多少の差異こそあれ、産業立地の上からは日滿支のブロックとして將來の計畫を樹積すべきことは當然である。滿洲國に於ける貧鐵礦も、大冶における富鐵礦も、コークス用炭の供給と相俟つてこれが計畫を進められるであらうし我が國內地における鉄鐵増産計畫もまたこれによつて多少の修正を加へて完璧を期し得るであらう。況んや支那、殊に北支における石炭存賦の状況は本邦のそれと甚だしく異なつて居り、大同炭の如きは層厚においても、坑内條件においても、品種においても、世界無比の優位にあるやうであるから、コークス用炭について觀たところ同様なことが他の用途においてもなし得るであらう。

石油資源については日、滿、支三國ともに恵まれてゐないやうである。支那の奥地における石油については、報せ

られてゐるが現在までの情勢では企業的資料に缺けてゐるところが多い。最近滿洲國錦縣附近における油微地に關する報告があつて有望なることが喧傳せられてゐるが、これまた今後の企業的調査に俟つところが多く、今日直にその價値を論ずることは早計である。

石油資源の貧富は今日においてはすでに問題とするに足らない。ドイツは列國に先んじて人造石油に成功し、現在では同國需要の約六割を人造石油によつて供給し、さらに今後の三年を期してその全額を自給せんとしてゐる。我が政府も昭和十九年において同年の需要見込額の五割を人造石油に據らんとする計畫を樹て目下帝國燃料興業會社その他によつて着々起業に向ひつゝあるは、多くの人の知るところである。

人造石油の製造に適する石炭は日滿支を通じて極めて多量である。本邦では北海道、樺太、朝鮮において大規模のものがすでに實施され、更にまたこれらの擴張、新設が計畫されてゐるが、滿洲國においても總額百萬噸の人造石油計畫が樹てられて居り、就中錦縣および舒蘭におけるものは何れも大規模のものであつて、すでに工事に着手してゐる。

人造石油の製造には相當量の石炭を要する上に、生産規模の大なることが經濟上必須の條件であるから、使用炭の適否と共にその採掘費の廉なることがまた決定的條件ともなるのである。この意味において滿支兩國における石炭の存賦狀況は、將來の人造石油事業に對し極めて有利なるものである。現在の滿支兩國に於ける石油の消費狀況は、その品種においても、數量においても本邦の狀況に比すべきものでないが文化の向上とともに著しく變化すべきは明白であつて、日滿支を一體とする人造石油事業の計畫を樹立することは刻下の急務であり、また文化の向上を促進する所以でもある。

製鐵事業に關聯するコークス用炭の確保と、人造石油事業の確立とは日滿支を一體とする新東亞の體制上特に注意すべき燃料問題である。産業用、動力用などの各方面に支給すべき石炭についても考慮すべき点は多々あるが、この二問題は我が國に恵まれざる資源の充實と、諸般産業の根幹培養の意味において、他に先んじて實行に着手すべきものである。

滿洲北支の皇軍慰問と炭田視察

(三)

★—互助會皇軍慰問團報告書—★

赤 司 有 三

滿洲より北支へ

山海關驛の記念スタンプ



奉天よさらば、と名残りを惜しみつゝ、今日は愈々北支に向ふ日となつた。(一行中久保田氏は社の特命で、昨夜天津に向け一足先へ出發したので、今日の一行は十九名である)

午前八時發の吾等の列車は今日一日から、初めて編成された東京釜山北京直通列車である。立派な展望車付き哈爾濱大連間の「亞細亞」に比すべきもので矢張り満員である。

奉天出發の際時雨れて居た天候も途中から霽れて、爽かな中秋の陽射しが車窓を徹して大變暖かである。大虎山錦縣等滿洲事變で有名な驛のホームでは相變らず記念スタンプが雑沓して居る。

錦州は熱河省に於て承德に次ぐ要地にして大きな城廓があり、遙かに其の城

門を見る。尙ほ承德線への分岐点として乗降の客多く広いホームもなかく混雑してゐる。

午後三時五十分天下第一關の（萬里の長城の起点として此の稱あり）山海關に着く。左は渤海灣を眺め、右に萬里の長城が重疊たる山岳に蜿蜒と連る奇觀を望む。

滿洲より支那への關門にして三十分停車。此の間税關官吏や憲兵警察官の検査や調査が頗る嚴重である。漸くパスして紙幣の兩替も忙しく、此の處世話係りも汗ダクの態。

此の驛から外人や紳士紳商の乗客が殖え英國海軍兵が多數乗込み、列車は相變らず滿員で身動きもならぬ。

愈々北支に入る

愈々吾等は憧れの北支に第一步を印した。十日振に見る渤海の青海原を眺めて、全く氣も清々する。

日清役に名高い秦皇島も車窓に近く、赤い夕日に照られて北戴河昌黎の各驛も、警戒いと嚴重裡に過ぎ、夕闇漸く迫る午後六時瀋陽驛に着く。異様の物騒ぎに驚き、ホームを覗けば、一人の兵士は團員野添氏の肩に凭れて一等車に乗込み、今一名は衛生隊の擔架に伏した儘で展望臺に擔ぎ込まれるところである。二三の戦友の看護を受けて居るが、一名は足部の負傷で、大した傷ではない様だが、擔架に伏した儘の兵士は頭部を覆ふて相當の重傷であるらしい。此の沿線山岳地帯に巢喰ふ敗殘兵討伐に参加して名譽の負傷をした勇士なる事を聞き、一同此の生々しき戰場光景を目前に見て、身の引き緊まるを覺えた。親しく見辨の辭を述べて、團長より見舞金を贈つたが、吾等としては、暫し感激のシーンであつた。乗合せた外人連中には恐らく奇異に感じられた事であらう。

此の沿線の治安状況は概ね良好と云ふも、時折り敗殘兵の匪賊化したる烏合の衆が鐵道線路を破壊して驛を襲ふ等の危難は尙跡を絶たずと云ふ。

この事あつて車内は一層の緊張を加へ塘山驛に着く、此處は河北省第一の炭田開鑿炭坑の石炭集散地である。引込線には連結された炭車や貯炭の山を見る。開鑿炭坑關係の英人と覺しき者の乗降が特に吾等の眼を惹く。炭山を指揮の間に見て炭坑話に花が咲く。

開鑿炭坑

茲に有名な開鑿炭坑を調査して見る。開鑿炭坑は河北省の東部にある大炭田で、今吾等の走つてゐる北寧鐵道の沿線に唐山、村面、馬家溝、趙各莊、卯子溝等の炭坑からなり、其の炭質は優良な瀝青炭で、炭層は二百五十尺に及ぶ處があると云ふ素晴らしい。製鐵用原料炭に適し、日鐵も、五十万噸位此の炭を入れて居つたとの事である。

其の埋藏量は一般には七億噸といふ推定が行はれて居る。

河北省は石炭の埋藏量に於て山西、陝西、四川、河南、甘肅、新疆、湖南の各省に次いで全支那の第八位にあり。其の埋藏量は三十億七千万餘噸と推定されて居るから、開鑿炭田は全河北省の石炭埋藏量の二割以上を占めて居り、河北省としては、最大の炭田であり、北支として最も重要なものである。年産五百万噸、河北省全額の八割を占めてゐる。此の炭坑の採掘權は現に開鑿礦務總局の手にあり、礦務總局は英支合辦に成つてゐるが、其の實權は英國に握られて居るから此の邊、英人の往來が頻繁なることも首肯される。

開鑿炭坑が、英國の資本下に置かれたのは明治三十三年北清事變からの事で、爾來英國は此の炭坑を據点として、北支に經濟力を伸ばしたのである。

殊に此の炭坑は海陸共に搬出の便を有し、陸には天津北京の二大市場を控え、海には秦皇島の良港を擁してゐる。従つて其の各般の設備は、最も近代的に行はれ、支那事變前、一時は年額五六十万弗の純益を擧げてゐたと云ふが、最近の業

績は事變に禍されたり又本年二三月頃大きな労働争議が起つたので、今日では、それ程良好ではない様である。

尙、開採炭坑以外英人系炭坑には、北京の西方京綏鐵道沿線の門頭溝炭坑といふのがある。矢張り英支合辦で三百萬兩の投資で年額三十萬兩を産出してゐるが、これも最近の成績は良くないとの事である。何れは新興の支那政府により經營さるべき運命に置かれ、明朗化される日の近からん事を祈つて已まぬ次第である。

偕て、日は全く暮れて、中秋十六夜の月明るく、吾等の列車は北京へと驀進する。午後九時五十分天津驛着。豫定より三十分遅延した。北京近し、後僅かに二時間。

夜の天津を飾るネオンの光も眩しき迄に、車窓に映じて街の繁華を思はしめる。午前十二時、北京正陽門驛安着。特務部瀨尾氏、田中福日北京支局長の出迎に感謝し、十二時半一同元氣に北京ホテルに入る。行程實に八百四十二杆、所要時間十六時間を乗通した草臥れを癒やさんとす。北支第一夜に元佛人經營のホテル。果して骨を休むるに足るや？。



北支の概念

一、北支とは如何なる地か

茲に吾等の一行は、元氣發洩として、北京に歩を進めたから、先づ北支とは如何なる處かを覗いて見やう。

元來北支といふ言葉は南支或は中南支と對照して云ふ場合には、彼の揚子江以北の地又は黄河以北の地を指すのであるが、普通北支那と云ふ場合には、河北察哈爾、綏遠、山西、山東の所謂北支五省を指してゐる。其の五省の面積は百餘万平方杆にして、我が内地の約三倍に相當し、人口は約七千七百万人と云はれて居る。北支那は古來支那政治の中心地として榮え、従つて大都會が多い。即ち北京は約百五十万、天津は三十万を筆頭に濟南、青島、保定等人口五万以上の都會は十六を算せらるゝ。而して之等都會の總人口は北支那總人口の一割四分と云ふから、残り八割六分の大多數は農民である。

氣候が概して大陸性であるのは滿洲と同じである。

二、北支の重要性（鑛産其他）

偕、北支が特に重要な意味を持つのは、天然資源の極めて豊富な爲で、其の主なるものは、鑛物に、石炭と鐵、就中石炭の埋藏量は無限と云はれるが、其の推定量は山東省で十六億四千万噸、河北省で三十億七千餘萬噸、山西省千二百七十一億三千万噸、察哈爾省の五億四百万噸、綏遠省の四億二千万噸、合計千三百二十七億六千四百万噸にして、中でも山西省の埋藏量は支那全土の六割を占めてゐると云ふから、北支の重要性も凡そ察せられる。次には鐵であるが、河北省に四千二百二十萬噸、察哈爾省が九千六百四十五萬噸、綏遠省が千七百萬噸、山西省に三千万噸、山東省に千四百三十一萬噸、合計一億八千七百八十四万四千噸となり、全支那の埋藏量三億八千万噸に比して約其の二分の一が北支にある譯である。北支の鐵山としては察哈爾省の龍煙、山東省の金嶺鎮が著名であるが、北支開發會社の手により、大々的に開發されるのも、決して遠くはなからう。

其他、金、石灰石、石綿、マンガン、銅、石膏、天然曹達等がある。

又農産物としては、棉花、小麦、豆、煙草、雜穀類を産し、畜産物には、獸毛、獸皮が擧げられる。塩の産出も有名で現に我國にも輸出されてゐる。

三、北支の交通

次に北支の交通について見れば、過去千年の間、北京が支那の中心であり、且つ天然資源の豊富な事から、北支の交通は早くから開け、鐵道の料程は全支那の鐵道料程約一万料の三分一以上の延長になつてゐる。是等の鐵道は概ね北京及び天津を起点として、南北に大陸を横斷し、或は東西に北支を連絡してゐる。北京漢口間の京漢線（今事變に名高き保定、正定、石家莊、安陽、鄭州、信陽を経て漢口に至る）

又天津と南京の北對岸浦口間を結ぶ津浦線（事變に有名な德安、濟南、臨城、徐州を経て浦口へ）北京と綏遠を結ぶ平綏線（南口、張家口、大同を経て綏遠省の包頭に至る）又石家莊、太原の正太線。（井陘炭坑は其の中間にあり）濟南、青島間の膠濟線。北京天津山海關の北寧線等が主なるもので。今事變に於て沿線主要地に皇軍が赫々の武威を世界に轟かせて、特に有名になつた。既に我軍の手に接收せられて、破壊の個所には應急の修理が加へられ、更に復舊を急いで居る。

此の陸上交通の便に比べて水運の便の少いのは、古來南船北馬と云ふ言葉の通り、現に船の出入する河川としては天津の白河あるのみである。尙事變前から自動車交通路も北京天津を中心にドシ／＼と開かれ、目覺しい發達を遂げつゝある例へば日本人經營の北京承德間及び北京多倫間のバス、又支那側の經營して居つた北京内蒙古を経て、新疆を結ぶバスの如きが是で何れも今後の發達が重要視されて居る。

次に航空路であるが、是れは大陸だけあつて早くから開けてゐる。先づ米支合辦に依る中國航空公司の北京、天津、青島、上海間の線又獨支合辦に係る北京、鄭州、漢口間の線で南支那との連絡に當り、又日支合辦による惠通公司是、北京

天津張家口間を連絡して居つたが、現在では我軍に接收され、主として惠通会社が航空輸送の任に當り、今日では北京から福岡へ四時半位で聯絡される様になつて居る。

福岡縣朝倉郡出身で、以前日本空輸會社太刀洗航空場長であつた岡部猛氏（航空兵科出身で青年航空將校時代には戰鬥飛行術の名將校として謳はれた硬骨の快男子である）が中心となつて、航空の刷新に活躍して居る。

四、事變前の政治

今事變前、北支那に行はれてゐた行政組織はどうであつたか。

河北省の東部には冀東防共自治政府が、冀東政權として事實上國民政府の命令とは全然獨立して特殊地域となつて居つたが、其の他の各省には省主席があつて省内の行政を司り、北京には秦德純、天津には張自忠が市長として行政の全部を切りまわして居つたのは周知の事である。

斯くの如くにして、北支那は、陝西、寧夏、甘肅、青海、新疆地方を背後に控へ北西には滿洲國に境し、東は黃海に臨んで日本と相對し、誠に雄偉な地形である。これ迄支那北方に興起した大陸勢力は常に此の地に依りて帝業を成就したのである。古くは遼、金、元、近くは清の各朝、皆現在の北京に都して四百餘年に號令して居つたのである。清朝が亡びて中華民國となつてからも十七年間は北京が首都であつた。が、其の間各地に軍閥が割據して内亂の絶え間なく、而も北方の軍閥は強大にして常に中央の政權を握つて居たが、千九百二十七年（昭和二年）國民黨が蔣介石を總司令として廣東より北伐軍を起して北方の群雄を平定、北京の都を南京に遷



したのである。

以上要するに、北支は特殊の意味を有し、我國を始め、英米佛其の他諸外國が種々の利権を持つて居る。即ち軍隊の駐屯權や軍事上の特殊權益又は居留地、或は借款に基く權益等、北支那の狀勢は是等諸外國の權益を持つて居つた關係上、皇軍の作戰にも、又事變後の建設にも微妙複雑にして、當局者の苦心も一通りでない事が察せらるゝのであ。

(十月九日記)

北京の第一日。特務部及軍司令部の慰問

北京の第一夜。北京ホテルは成程設備は整つて居るが、毛唐臭タップリのホテルで、旅の疲れを醫するには、余りにも殺風景であつた。(或は筆者の自己中心かも知れぬ)

第一言葉が通ぜず、一行と連絡の爲に、いろ／＼の用件を言ひ付けても、トング間違を生じて怒つたり、苦笑したりする事が多かつた。

電話を利用しようとする、之が又外人の交換手、而も男のドス聲と來て居るので、不可解な應答のみを繰返し、凡そ内地の優しい交換嬢の黄色い聲を聞慣れて居る吾等には、何だか叱られてゐる様に響いて、二言目には、日本人と代れと怒鳴りたくなる。

こんな鹽梅であるから、一行の各ルームには色々ナンセンスな出來事を殘して來たことゝ想像される。

時間にしても、未だ日本時に一時間遅れである爲に、食事時間や出發時間に間



違を生じて憤慨する。

午前八時諸般の打合せを済して、十時、武内團長、山本、西本、橋上、木曾の諸氏は特務部を訪問し、第二課長石本中佐及び瀨尾技師に面會、慰問の辭を述べ、併せて吾々中小礦業者として、微力ながらも、大いに働く決心である。吾々團員一行は、最も眞剣な氣持を以て來てゐるのであるから宜しく御指圖を乞ふ。

旨を述べたるに對し、石本中佐より、懇切なる言葉があつた。

更に瀨尾氏から今後視察の日程、場所等につき指示を受けて、正午ホテルに引き上げ、一同中食をしたゝめた。

午後一時、寺内部隊及び陸軍病院、〇〇部隊を慰問し、尙慰問演藝班、漫才師四名の演藝場所の振當て方を富松副官に依頼して辭去した。

今日の慰問中、特に意義あらしめたのは、病院での慰問であつた。

郷土出身廣田軍曹(門司出身)外二十余名の勇士と親しく談合の機會を得て、筑豊地方、小倉、福岡等の出身者と團員とが膝を交へて會談し郷里の事情や銃後人の活動の實狀を詳細に傳へ、又砲煙彈雨の中に奮戦した勇しき物語も聞いた。双方百年の知己に會つたかの如く喜び合つた



〇〇病院に郷土の勇士を慰問

情景には思はず感激の涙を催した。

勇士は口々に

「早く全快して、又第一線に出て働きます。郷里の人達には元氣だと言つて下さい。」

と雄々しくも又頼もしき郷里への言傳であつた。

勇士達の談片中に、内地から慰問に來る團体も数多いが、吾々に至るまで斯くも懇ろな慰問は、これが始めて、

すと、中には涙して感謝の意を表せらるゝ人もあつたが、吾等も無上に嬉しかつた。名残りは盡きぬが時間は迫る、互に心を惹かれながら、全快の一日も早からん事を祈りつゝ、暇を告げ、午後五時半ホテルに歸つた。

更に午後七時より。東興樓（支那料理店）に於ける、福日北京支局長田中齊之氏主催の招待會に出席する。

田中氏は福岡縣鞍手郡の産。十數年福日本社に在つて手腕を揮ひ、本年五月北京支局の開設せらるゝや、特に拔擢せられて初代支局長となつた人、團員中にも知己多く、殊に木曾氏とは學友關係にあり、旁々我等の爲に此の宴を設けられた次第である。

席上には、代議士原惣兵衛氏を始め、官術會社の技師等、在京知名の士や、種々の方面の識者十余名を陪賓者とし極めて盛會であつた。

全主客三十余名東興樓自慢の純支那料理の卓を圍んで、之等知名諸士のテーブルスピーチを聞く。あらゆる角度から見た北支事情乃至は今後の建設に備ふべき日本の覺悟と其の態度、或は北支の豊かな物資の開發に對する所見を各自専門的又は技術的の見地から極めて率直に、又大膽に述べられ、吾等一同大いに得る處があつた。

終に武内團長の謝辭あり、余興として、漫才の演藝に満場を笑はせ、午後九時半辭去、一同ホテルに引揚げた。

（十月十日記）

連日の暖い小春日和に恵まれて、一同益々元氣であるが、茲に晴天の霹靂、悼まじき訃報に接した。

それは團員野添氏令息の逝去である。野添氏の愁傷は言ふ迄もなく、一同驚愕の中に謹んで哀悼の意を表し。尙、歸

國方を慇懃したが野添氏は熟慮の、上既にかへらぬものを歸國するも詮方なし。是よりは佛への供養として、更に皇軍の慰問に精進する決心なり。と遂に歸國されず。一同、同氏の心中を察し言葉もなく、遙かに令息の冥福を祈るのであつた。

さて、本日は特務部の厚意により喜多閣下及び石本第二課長の北支開發に關する講話を拜聴する日である。

午前九時半二十臺のヤンチヨ（人力車）を連らねて特務部に出頭、直ちに會議室に案内された。

午前十時半、喜多閣下より激勵の訓辭あり、終つて石本第二課長より、大要左の如き講話を聴き、大いに得る處あつた。

講話の大要（前提省略）

諸君は折角視察に來られたのであるが。唯見るだけでは駄目である。充分に見、而して是を批判し、是れを討究して、大小に不拘、これが實行力の伴ふことを切望する。

餅は餅屋との譬への通り、何事も其の事業に實際的體驗を得た人の力を以てする事が一番の捷徑であり、又成功もするから諸君の如く實際家を吾々としては歡迎するし、又期待するのである。

今差當つて開發すべきものは、石炭と棉花である。其の中棉花の開發問題は比較的容易と思はれる。何故ならば、棉花の増收開發は、直接支那大衆たる農民がこれに依る利益を受けるのであつて、支那大衆が今後眞に日本人に親しむべきものなりとの認識を深め、これまでの様に搾取されることなく、年々個人の収入が殖える事になれば、自然に棉花問題は解決されると思ふ。

之れに對し石炭其他礦産物の開發は、なかく簡單には行かぬ。第一投資の間

ヤンチヨ連れ特務部へ



題もあり。更に運搬の問題がある。又石炭を多量に産出しても、それが直接農民大衆の利益にはならぬ。勿論間接には受益はあるが、棉花の様に、眼に見えて今年は何程の収入があつた。來年は耕作を改善して何程の利益を多くしやうなど、言ふ譯には行かぬ處に困難がある。

即ち石炭開發はどうしても資本が集中され、勞働者の一部が炭坑に働いて勞銀を收得して居り、一面共產黨は手を代へ品を替へて悪宣傳を行ひ、無智の大衆を煽動する。又現在重なる炭田には英國の資本が投ぜられて、英支合辦とは言へ、殆んど實權は英人の手にある状態で、これを如何にするかも一問題である。

今の處、殘された大炭田としては大同、井陘等があるが、これらの炭坑は運搬が思ふ様に行かないため、幸か不幸か、外國資本の手に染まず殘されて居つたものである。吾々當局にある者から考へると、今述べた様な事情から石炭の開發は棉花に比べて困難がある譯である。

然るに石炭は實に豊富で、北支各省石炭の出ない處はないと謂はれながら、事實は石炭に不自由を來して居る有様で、北京市内でも、非常に高値の石炭を使つて居る。是れでは諸工業の發達にも大影響あるは當然である。

其の他の物資にしても耕作すれば、農産物は幾らでも出来る。廣き沃土があり、鑛産にしても、石炭以外、鋼鐵金等、必要な資源が無限にあるが今の處死藏され



てゐると云ふてよからう。

この北支を如何にして開發するか、實に大問題である。

徒に、一攫千金を夢みる利權師の所謂利權を漁るが如き輩は是れを斷乎排撃して、眞劍に、北支の開發に志す實行第一

主義者のみをドシ／＼入れて、堅實に努力するならば、吾々も是を援助し是を助成する事に力と時間を惜しむものではない。

前に述べた棉花の開發は全く焦眉の急であつて是れには前に述べた様に、今後支那の大衆と堅く手を握り合つて行く事が必要である。只一部の要人とのみ事を構へるのは不可と思ふ。要は正邪を明らかにし、邪に對する正義の武力は今迄通り何處々々までも押し通し、之と併せて、日本人の持つ溫情的精神を、支那良民大衆にも抱かしめる事を考へねばならぬ。彼の匪賊の中には既に赤化して思想的に反抗する惡質の者もあるが、又生きんが爲に、己むを得ず匪賊化した者も澤山居るのであるから、是等には食を與へて大いに働かせなければならぬ。

要するに恩威並び行はれ、大衆が眞に吾に従ふに到れば資源開發敢て困難事に非ずと思ふ。この意味に於て宣撫班の活動の如きも大いに意義深く、又責任も重くなつて來るのである。

既に北支開發會社の創立を見たが、それは主として、大きな部門に對する開發であつて、單に石炭のみを見ても、手の届かぬ處があり、諸君が眞に検討し努力されるならば、其の余地は澤山あると思ふ。何卒新興北支の實際を深く認識され國家の爲、將又東洋平和の爲明朗支那建設に努力せられる様切望する。云々。

以上、其の大略を記述したるが、終つて武内、諸氏との間に二三の質問應答あり。北支開發により、石炭が流動して内地の炭界を脅すが如き事無き旨を附言せらる。

尙瀬尾技師より、炭田視察上の注意に加へて「目下英國人の手にある炭坑は開鑿及び門頭溝、それに山西省の焦作炭坑である。是等は、炭量の豊富なると、搬出の便である事に依つて外人に權力を握られて居るのは、只今お話の通りである。大同炭田の如きも、不便であつたお蔭で殘された様なものである。開發會社の手により大同、中興等の大炭田を一プロツクとして、着々と準備を進められて居るが、まだ／＼各省に亘つて石炭は無盡藏と云ふ程埋藏されてゐるから、北支を第

一として中部支那の如きは、吾々の子供や孫の時代になつて、盛んに採掘せらるゝであらうが、今より百年の大計を樹て、協力すべきであると信ずる。
特に強味を感じるのは、内地に不足してゐる原料炭の多い事であつて、今申された様には是非開發に協力して貰ひたい。
云々。

と述べられ、此の意義ある講演會を終り、午後二時ホテルに歸つた。
中食後は各自、自由行動が許され、午後七時より會長の慰勞會に出席したが、席上、軍司令部囑託大審院檢事船津宏氏（福岡縣出身）から、支那事情特に支那民族の特異性、風俗習慣等に關する有益な講話を拜聴した。
是れ亦本日の大なる收穫であつた。

（十月十一日記）



ルに歸る。

今日の日程は有名な皇城萬壽山、天壇其他の名所の視察で更に特務部第二課長招待會に臨む豫定となつてゐる。
午前九時、バスを借り切つて萬壽山の頤和園を觀る。萬壽山を背景に湖を廻らし天然の庭と、其處に建てられた豪華な家屋は、日本でなら、天然の美と人工の極致を兼ねた結構と云ふか、其の規模の大は言語に絶して居る。
午後一時から石本第二課長の後玉公廠に於ける饗宴に出席して、一流の支那料理に支那名妓の余興とに洵然となり、午後三時終了。是れより一班は岡部猛氏の厚意による惠通公司、飛行場に、一班は蘆溝橋其他を視察して一同午後六時ホテルに歸る。

て於に廠公王後



萬壽山

吾々が北京滞在中、大阪朝日新聞の北支版に「北京觀光案内」と題して四日間連載された記事は、微に入り細に涉つて最もよく北京を描出されて居り其の中萬壽山觀光の要点を拾ふて見やう。

前略。北京市を大ザツバに大別すると、大休、外城と内城の二城壁を二大外廓として、其他義和團事變の結果、獲得された各國雜居留地の交民巷及、支那人街を其の主なる構成要素としてゐる。此の中、内城約千八百、外城約四百、合計二千二百の街巷を含んでゐる。

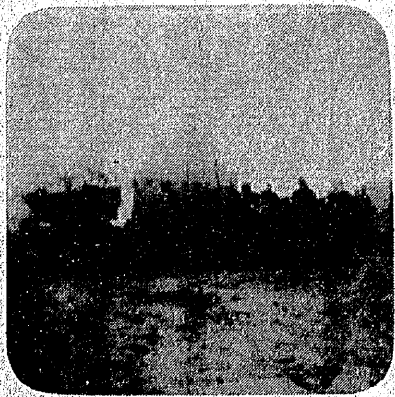
何と云つても古都北京の典雅な風致の大部分は、巨大壯麗な建築もさる事ながら其の街巷の總てを埋め盡しても余りある鬱々たる樹木の中の都として生ずる確りした趣とにある。されば情熱の詩人土井晚翠は曾て北京所感に。

生ける歴史が積りこし、齡はこゝに二千年

とうたつたが、誠に一街区一木一草の内にも、云ふべからざる詩趣と歴史の香が沁み込んで居る。そこが北京の身上であらう。（中略）

古都北京の正陽門前に降り立つて、さて、何處を如何なる順序で觀光しやうかと誰しも迷ふ事であらう。

清真寺。何々門、さては泥棒市場と、其の特色ある一つ／＼を覗く事になつたら、恐らく數ヶ月一年の日も決して長しとしないであらう。しかし北京へ来て



是非此處だけとは云ふポイントを云へば、先づ、一、皇城。二、天壇。三、萬壽山の三つに指を屈せねばなるまい。
(中略)

萬壽山の美は勿論、湖を掘り壯麗なる樓閣を築いた支那特有の人工の極致にあるけれども、其の美の根底をなすものは矢張り左右の兩山と玉泉山とを連ねて翠黛を裝ふ山嶽の美であらう。

是は北京の西方を去る太行山脈の一支脈であつて、其の主なる山は、萬壽山の外に清泉湧く玉泉山、紅山、石景山等がある。従つて北京西郊を走る一連の山脈には遠く遺唐時代から、佛寺や樓閣が造營されて居つた。萬壽山は、即ち其の尤なるものである。

大休頤和園と呼び清朝時代の夏の離宮として造營されたのが、本格的な遊覽地と化した始である。古くは元の時代にも魏山と呼ばれて何かの造營物があり、明の時代にも圓靜寺といふ寺があつたと云ふ。咸豐十年(皇紀二千五百二十年)今より八十年前義和團の亂が起ると共に、英佛聯合軍の爲に完膚なきまでに侵略放火され盡した。

それを西太后の時代に清國海軍擴張費の過半を割いて大修繕が行はれ、今日の萬壽山が出来たのである。従つて萬壽山は西太后晩年の豪華な生活の名残とも云ふべく、そして夏季避暑の離宮として、輪奐の美を極める事となつた。萬壽山の美は、昆明湖の水と太行山脈の山腹を縫ふ宮殿樓閣の建築美とにある。勿論精緻且つ高踏的美術眼から見れば稚拙極まるものかも知れぬが、萬里の長城のやり方で湖を掘り、幾多の樓閣を築いた人工の偉大さに於ては、確かに驚嘆に値すべきものがある。

今萬壽山の重なる建物について擧ぐれば次の如し

萬壽山昆明湖に船を浮て



石船

一、仁壽堂、比較的新しく、光緒十六年の建造で、正面の大宮門入つて仁壽門の内にある。西太后や宣統帝が、此處で外國使臣を接見し、或は政務を見て居つた。其の北に近く徳和園があり、西太后觀劇の跡と傳へらる。

二、玉瀾堂、光緒帝の便殿で右後方は帝の寢室であつた。光緒帝が西太后の爲に此處に幽閉されて居たのは、支那史上に名高い。(中略)

其他、見るべきものとして、西太后の便殿樂壽堂、頤和園(萬壽山)の正殿、桃雲殿、桃雲門を中心に東西に連らなる長さ二百七十七間の長廻廊などがある。

次に萬壽山に水の美を添える昆明湖は、古くから西湖又は大泊湖と呼ばれ、乾隆帝時代に擴張造營せられて昆明湖と呼ばれるに至つた。

清朝時代には此の湖にて滿洲八旗の精銳を集めて水戦水技を競はしめたと云はれる。

西堤の布置は江南の景を模し、湖心の龍王廟は歴代皇帝雨乞ひの靈場とされたる處、又東堤に連なる所謂十七孔橋は蘇州の寶帶橋を模したものである。尙湖上には乾隆帝が造つた石船がある。面白いのは有名な西太后の雅船と我が川崎造船所で造られた船とが艇庫内に浮かんでゐることであつた。云々 以下略

これにて萬壽山の大体を知る事が出来やう。
擬て茲に北京所感を少し述べて見る。



西太后の雅船

一、日本人の進出状況

支那事變勃發以來、北支に於ける邦人の進出は實に目覚しきものがある。今北京だけについて見るも、昨年七月事變勃發當時の邦人居留民は約一千二百余人であつて、外に半島人が千三百人と少數の臺灣人が在り、合計二千五百余人に過ぎなかつたのが、今日は内地人だけでも二萬一千余人を超え半島人、臺灣人を加へる時は一萬七千余人となり、尙毎月夥しい激増であると云ふ。

而して是等の邦人は一つは満鐵關係、一つは興中公司の従業員として、それ／＼部署に活動し北支の建設に努め、他は獨力にて種々の事業を經營してゐるが、當局者の談に依れば、獨力經營の人には堅實なる經濟的基礎の上に立ち活動して居る者が少いと云はれて居る。中には下サクサの裡に濡手で粟を掴む式の一攫千金の夢を描いて來る人も少くない。今後は之等に對しては充分取締る方針であるとの事である。北支を充分に調査して認識を深め、長期建設の國策線に沿ふて、堅實なる地盤を築き進出すべきであると思ふ。最近著しく殖へた日本人の職業は、何と云つても水商賣であつて、カフェー、飲食店、料理屋、旅館或はダンスホール等が斷然壓倒的である。殊に旅館は事變前十二三軒であつたのが、今日では既に百軒もあらうと云ふ。料理屋、カフェーだけでも七八十軒が新たに殖えて、之等花柳界の殷盛は驚くべきものがある。凡そ新開地に花柳界の發展は付き物で、邦人發展のパロメーターとも云へるであらうが、一面余り日本の誇りではないと心ある人は撃墜してゐる。

二、支那労働者寸描

今一つ北京で感ずる事は（之れは滿洲でも感じた事であるが）支那人の労働力と其の勞銀の低廉な事で、大きな驛に降りると、昔の陣羽織を思はせる様な變な着物を着た男が澤山居る。彼等は手荷物を運ぶ日本の赤帽であるが、體格も堂々と、非常な強力で、日本人なら二個しか持てない大きなトランクを兩脇に抱き込んで更に他の手荷物を兩手に提げて。平氣で改札口へ運ぶ。全く強いなと感心する。そして賃金は一個三錢支拂へばよい。

又人力車夫（洋車、支那語で「ヤンチャヨ」と呼ぶ）の多い事に驚く。何でも、北京市内だけで五萬臺以上の人力車があると云ふから、人力車夫として働く者が五萬人居る譯である。之れ又驛は勿論、ホテルの前、四辻、公園到る處に、自由に客待をして居るから、至極重寶であり、而も勞銀が安い。内地でなら五十錢以上は取られると思ふ程の距離を僅か五錢か十錢やれば、「ホウ／＼」である、勿論人を見て二十錢三十錢を要求するけれども、そこは乗る者のコツである。

之等労働者級の生活は一日十錢から二十錢であると云ふから、其の勞銀も推測出来る。工場、中小商店に働いて居る従業員等も之れに準ずると云ふから、労働力の競争では内地人は迎も問題にならない。此の安價な労働力を自由に利用し得る支那の企業家や其他の營業者は非常なる強みであると思ふ。

要するに北支では何か事業を企圖するならば風俗、習慣、民族性の相異等を先づ現地の実情に就て詳細調査する必要がある。日本人でなければ出来ない仕事、又支那の安い労働力を自由に利用し得る工夫を凝らすことが是非必要であると思はれる。



北京の明の期一風景

三、新興政府動向

去月二十二日北京勤政殿に於て新しき明朝支那建設の輝かしき礎として、中華民國臨時政府と南京維新政府との聯合委員會が誕生し、委員會成立の祝典が擧げられ、中外に宣言を發表。翌二十三日には本會議が開かれた。

北支に臨時政府の成立を見たのは、昨年の十二月十四日であり、王克敏氏が代表し、南京に維新政府が出来たのが、今年三月二十八日で梁鴻志氏が委員長である。兩政府共に着々として發展し、日を逐ふて充實振りを見せて居るのは、誠に心強い事である。

是に將來蒙疆政府も参加して、共々に中華民國の再建に邁進すべき機運が充ち満ちて居る。武漢三鎮も既に我が有に歸し、此處にも新しき政府が組織されるであらう、將に南北打つて一丸となつて、力強い新國家が出来、四億の支那民衆が塗炭の苦しみから救はれて全支樂土化する第一歩である様に思はれる。

戰爭に禍された支那の良民は、實に氣の毒である。到る處敗戦國民としての慘めさを目撃しては、日本國民なる事の有難さと優越感に打たれ、如何なる犠牲を拂つて、戰爭には勝たねばならぬとつくづく感じたが、この感湧き出る毎に皇軍の忠勇果敢の戦果に對し、感激の念禁じ難く、今更の様に新しき緊張を覚えるのであつた。

事變前までは、英米佛人でなくては夜も晝もなかつたと云ふ、この歐米人の影も今は薄くなつて來て、北京でも天津でも、其他張家口でも日本人だけが一人幅をきかせてゐる。僅か一年の間に、斯くも盛衰の因果律に支配されるものか。と皇威の宏大なる事と日本人の偉大さに新たな感謝の念が湧き起る。

四、日本語の普及

吾等の旅宿北京ホテルは、外人の經營であつたせいもあるが、總てが西洋式で、二三人日本人が居る外は、二三十人余の使用人が全部支那人である。之等が又英語なら通すが、日本語は殆んど通ぜぬ。支那人が英語なら話せると云ふ事は人力車夫、自動車運轉手に至る迄同じであつて、如何に歐米萬能であつたかが知られ、憤慨せざるを得ぬ。

然るに最近では、日本語熱が非常に旺盛になつたと云ふ朗報を聞かされ、聊か溜飲の下るのを覺えた。

既に皇軍の武威の下に、他面宣撫工作と相俟ち、恩威並び行はれて復興に努力され、明朝支那を建設すべく各地に日本語の研究熱が熾烈となり、北京では勿論、天津、青島でも既に小學校に日本語の正科を設け、支那人警察官と商店員には特別の日本語を施し、山西省では大同、太原共に日本語學校が開かれ、上海では最近日本語熱が盛んであるとの事である。而も成績極めて良好で、全く日本語を知らなかつた者さへ、僅か六ヶ月の教育で、一と通りの讀み書きが出来る様になつたといふ。誠に朗かな光景である。

日本の支那進出は、支那に日本語を解せしめて、根本から眞の日本を認識させ、之までの誤つた排日觀念を反省せしむる事の急務なる事は何人も痛感する處である。

十月十三日 水曜日 晴天

今日は平綏線で張家口に皇軍を慰問し、山西省に入り、大同に行く日である。

午前八時二十分、北京正陽門驛發列車に乗り込む。

一同益々元氣。沿道各驛の警備將兵の慰問をなす。特に南口驛にては、鐵道司令部山口部隊長に面會。武内團長より慰問の辭と慰問品を贈つた。

昨年北京、張家口間の主要地を占據し、皇軍の下花園に入城したのが、八月二十九日、茲で始めて、北京、張家口間の聯絡全くなり、平綏線中北京張家口間は皇軍の掌中に歸したのであつた。

今吾等の列車は万里の長城を左右に眺め眺めたる山岳地帯を縫ふて徐々として走つて居る。沿線に一年前、我軍の惡戰苦闘の戦跡が、次から次へと展開する。南口站、



北支に菊の花が見事に咲いた

八達嶺等の山岳戦にあらゆる辛苦を嘗めた當時を回想しつゝ、午後三時張家口に着く。

一と先づ察南ホテルに休憩、〇〇部隊本部を訪問して、團長より懇に慰問して一同ホテルに歸つた。午後六時半の發車迄には、尙三時間の暇があるので、思ひくゝに張家口市街見物に出る。

張家口は察哈爾省の首都。支那本土中、北京以外の都會では第一に位するもので、事變前は、察哈爾省政府首席たる例の第二十九軍の師長劉汝明であつた事を想起する。

此の地は元來蒙古民族が其の關門として居た處であつたが、漢民族に追はれて、何時の間にか北に移り、ソビエイトが極東に赤の魔手を伸ばすに當つて、この張家口を庫倫即ちウランバートルに結ぶ重要連絡地点に選んだといふことである。されば共產主義を入れて、ソビエイトと握手した彼の抗日軍閥たる馮玉祥が此の張家口を本據として根を張り、爾來常に馮玉祥系統の者が此處に勢力を扶植して居つたのである。張家口は蒙古名をカルガンと云ひ、外國人には寧ろ、此の名に於て知られて居るといふ。北京を去る北に二百十軒余、東西及び、北三面は山に圍まれ、海拔三千七百尺の高地に在り万里の長城が、市の北方を中心として、蜿々と連る態は全く天下の奇觀である。其の中心に大境門があり、蒙古と支那との咽喉に當る。人口約八万余人で、事變前よりすつと殖えてゐる。氣候は冬季は酷寒零下二十度に達するが、夏は九十度位の暑さとの事である。一年を通じて、最も良い秋の時候に來た譯であるが、今日の晴天には、少し歩いて汗ばむ様な暖かさであつた。

市街は南から北に長く開け、幅は五六町で半里位連つてゐる。街路は不完全で、黃塵萬丈と云ひたい處、一度雨天になれば、泥濘膝を没するであらう。

支那軍の兵營には目下我が〇〇部隊が屯して警備に當つてゐる。事變前支那の軍事上主要地としてその施設に特に力を入れた跡が見へる。

張家口は又商業地として樞要地である。即ち、蒙古人への必需品及びソ聯への茶の輸出或は蒙古地方から畜産類を此處で集散して取引が行はれ、三、四、五の三ヶ月と、九、十、十一の三ヶ月には盛んな市が立ち、目下非常な賑ひを見せて居る。従つて之等商業上、必然的に發達した交通機關としても自動車等の近代機關の外に馬車、牛車あり、更に内地に見られぬ駱駝ありで、寫眞やパノラマに見る如き味な風景である。

張家口名物。物々交換の市場は、最近殆んどなくなつたと云ふ。

街の中央に、川幅五十米位の河が流れてゐるが支那には珍らしく清い流れある。將に山紫水明と讚めたい處である。場末にある支那特有の土藏造り見た様な家から、白い煙が立ち罩め、駱駝の五六頭に荷をつけた蒙古人が、夕暮の歸りを急ぐ有様は此の街獨特の風景であらう。

又此處で蒙疆自治政府に敬意を表しなげばならぬ。有名な蒙疆自治政府察南委員會が張家口に在り、大同には晉北委員會がある。其の政府主席が、今を時めく徳王氏である。恰度、吾等の一行が察南ホテルに休息したのと相前後して、徳王首席も蒙古兵や皇軍の警戒裡に此のホテルに休憩されたので吾等も拜顔の光榮に浴した。

昨年八月、即ち事變勃發と共に、共產軍の内蒙侵入を斷乎として防衛し、我空軍の掩護もあつたが、兎に角徳王の率ゆる内蒙軍の果敢な戦闘によつて遂に共產軍の侵入を防いだ。あのニュースに快哉を叫んだのも一年前の事であつた。然らば徳王とは如何なる人かを伺ふて見よう。

從來蒙古民族は、南京政府より非常な壓迫を受け、この儘放つて置けば、遂に亡びるより外に途なき状態にあつた。是れを見た徳王は、蒙古民族自身の復興を圖る爲に驟然として起ち昭和八年頃から、内蒙古自治運動を起してゐたのである。徳王は蒙古族の出身で幼時から北京、天津に留學し世界の大勢に通じた蒙古人の中の新智識である。彼は世界の情勢を達觀し、更に蒙古族の現状を案じた時、余りにも蒙古族が惨めな生活を送つてゐる事に氣付いた。

此の民族を救ひ、向上させる事こそ、自己に與へられた大使命なりと自覚したのが此の若き英雄徳王であつた。然らば、如何にして救ふべきかに、深き考慮を拂つた結果、彼の結論として得たる處は、即ち、共產黨を絶対排撃して先づ蒙古民族による内蒙古の自治を行ふべしといふ事であつた。そして之れ以外には、絶対に途なしとの斷定を下したのである。

其の理由は、ソ聯の魔手に操られてゐる外蒙古の現實が極めて悲惨であるに引きかへ、共產黨を徹底的に排撃した滿洲國が、王道樂土を樂しみつゝ、着々民族の幸福と向上を圖りつゝある事實を見たからである。

斯くして民族自救の決意を固めて、起ち上つた徳王は察哈爾省の北部即ち、察北六縣を其の勢力下に置き、こゝに蒙古軍政府を設けた。古來蒙古民族は其の王を尊崇する念が強く、従つて民族自救の爲に起つた若き徳王に對して、全民族を擧げて従ひ、茲に年齒三十七才の徳王を盟主とする強力なる自治体が成立したのである。此の徳王を援けて、蒙古軍を今日の精銳に教導して來た人に、李守信大將がある。

李守信將軍も生粹の蒙古族で、徳王が内治外交の手腕に秀でゝゐるのに對して、李守信は軍事に卓越した手腕を有し、現に蒙古全軍の信望を一身に集めてゐるといふことである。

されば現在の蒙古軍は極めて精銳であり、これまで未だ敗れた事なきを誇り、又決して敗れずといふ強い信念を持つて居る。一昨年頃から綏遠省の首席傅作儀は屢々軍隊を出动して此の内蒙古自治内を窺ひ挑戦したが、其の度毎に蒙古軍に撃退され、今次事變の勃發を見るや、傅作儀は蒙古攪亂の好機となし、朱徳、毛澤東等の部下共產軍の應援を受けて一舉に内蒙古を突破、滿洲國內に侵入せんとの態勢を示した。之に對し徳王、李守信の率いる内蒙軍は、其の自治區域を衛り恐るべき共產軍の潜入を防ぐべく、斷乎是に應戰の態勢に出で、彼をして遂に一步も入れしめなかつたことは、吾等の記憶に新たな痛快事であつた。

昔から蒙古族は勇敢を以て鳴り、清朝の時代にも、之を恐れて蒙古人の去勢の方法を講じたといふ記録がある。

例へば多數の寺を建立して、ラマ教の信者となし、蒙古青年をして、讀經が唯一の日課といふ獨身生活を強ひ、或は悍なる蒙古人の行動を不自由にする爲め、樹木を伐つてしまつたといふ、如何に蒙古族が精悍であるか、想像するに足る。

會つて時代を席捲した「成吉思汗」の血は今も此の民族の中に脈々と流れ、吾々の大和民族と多くの点に於て共通の特質を持つ蒙古民族の將來こそ、將又、蒙古自治運動の將來こそ、蓋し刮目に値する。

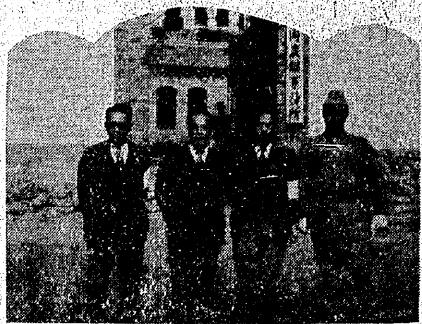
今は昔、千山万里の波濤を蹴つて、我が博多灣に襲來した十萬余騎の蒙古兵に、神風怒つて、水天に躍り、忽ち沈む蒙古の軍船、唯三人を残して玄海の藻屑と消えた四百年の今昔を懷古して轉た感慨無量なるものあり。

偕て、吾等の一行は察南ホテルにて夕餉を済まし、午後六時發の大同行に乗る。驛毎に乗降の支那人に對する身体検査は迎も嚴重である。

列車は重疊たる山岳地帯を西に走る。此の線では未だ夜行列車は危いと聞いて、内心氣遣つてゐたが、途中何の事故もなく、午後十一時大同驛着、晋北ホテル出迎へのバスにて、薄暗いしかも凹凸はげしい悪路に揺られながらも、一同元氣にホテルに入り本日の行事を終る。行程四百軒。所要時間北京張家口間、六時間張家口大同間、五時間であつた。

(十月十三日記)

九月末内地で聞いたラヂオニュースに張家口地方の高原地には早くも冬が訪れ、氣温も零度下との事で余程寒いと豫想して、其の準備もして居つたが、昨日も暖く、今日も又秋晴れの天氣で、氣温も内地と大差なく、動もすれば上衣を脱ぎたい位である。



大同炭坑ニテ

細に視察する。

寫眞の背景に見ゆる昇降ケージは數年前、閩錫山が、五萬元を投じて建設したといふ。坑内は實に、聴きしに優る好條件に恵まれ、瓦斯なく、水無く支柱なし傾斜度が緩かにして殆んど平地の往來に等しく、炭層は一米乃至三米で、七層を成す。現在最も盛に稼行して居る處が廣く、グラウンドの様である真中に、一ヶ所、塊炭を以て支柱とした處があつた。此處では野球が出来ますよと係長自慢の説明に一同グー

坑内一巡、午後二時クラブに引揚げ、クラブで調査された一皿のカレーライスの味は、如何なる山海の珍味にも優る御馳走であつた。(以下次號)

午前六時頃から起床して部隊慰問と、大同炭田視察の出發準備で、世話係は忙しい一時であつた。
北京で追付いた慰問演藝班四名を同行して、一行は昨日から二十四名になつて賑やかである。
午前八時半貸切りのバスにてホテルを出發。〇〇部隊本部隊に兵站病院を慰問し、同伴の演藝班に慰問演藝を命じて、吾等は大同炭田の視察に向ふ。
市街より約二十軒をバスで飛ばし、大同炭坑着。クラブに休憩、杉野坑長の炭坑概要説明を聞き午前十一時一同寫眞の如き異様な坑内装束に改め、カンテラを提げて、澤畑坑内係長の案内にて二時間に亘り、詳



参 考

試掘出願から鑛業權

(試掘權)の生れる迄の經過

福岡鑛山監督局 星 惣 吉

まへがき

鑛業を爲さむとする者は其の何人たるを問はず鑛業權を持たねばならぬ。其の鑛業權を取得する爲に鑛業の出願を要するのである。凡そ鑛物を發見したならば直に鑛業の出願を爲し、鑛業權の許可を受けることに心掛けねば、其の鑛物の發見は何等の効果を齎らさぬのである。

何となれば我が鑛業法中には鑛物發見者を保護する別段の規定が設けて無いからである。(東北地方には産金奨励の意味から金鑛發見者には若干の謝禮をなすことになつて

居るが、之れは鑛業法や鑛山監督局の關係する處ではない) 然らば其の鑛業出願を爲すには如何なる手續を要するや又其の出願が許可になる迄には如何なる経路を辿り如何様にして鑛業權を附與せらるゝものであるかを之から説明しやうと思ふ。

鑛業の出願

元來鑛業出願の動機即ち鑛山の發見には種々の態様があるであらう。或者は山道を歩行中墮いた石が羨しさに之を

持歸りて専門家に見せたら有望の金鑛であつたとか、又は炭焼夫が籠を造る爲に山谷を地ならしをしたところ鑛床を發見したとか、或は又日頃信ずる神佛が夢枕に現はれて御託宣があつたとか、其の例は枚擧に遑ない程ある。

斯くして發見せられたる鑛山に對し其の權利を確保しようとするには我鑛業法の下に於ては同法第二十一條並優先權に關する同法第三十三條の規定に基き鑛業の出願を爲すべきである。

其の鑛業出願の手續は、鑛業法施行細則様式第一號の規定に依る願書、即ち

何鑛試掘許可願

何縣郡村大字何地内

面積 何坪

右個所ニ於テ何鑛試掘許可相成度圖面相添此段相願候

住所

出願人 氏 名 印

何鑛山監督局長氏名殿

以上の如き願書に手数料金五十圓也收入印紙を消印せず

余白に貼付し、鑛業法施行細則第十九條同様式第十四號に據る圖面四葉を添付の上書留郵便を以て差出すべきものである。

軍機保護法適用地域及要塞

地帯に於ける特別の手續

虚が其の出願せんとする場所が軍機保護法適用地域若は要塞地帯法第七條第二項（要塞地帯第三區外方三千五百間内）の場所なるとき又は業法第十條第二項の規定せる陸海軍の軍港、要港火藥製造所。火藥庫及彈藥庫の周圍三百間以内並要塞地帯第二區及第三區内の場所なるときは次に述ぶるが如き特別の手續を要するものである。

即鑛業の出願を爲さむとする個所が軍機保護法適用地域である場合は、出願に先だち出願圖面の作製の爲所轉官廳（福岡鑛山監督局内に在りては要塞地帯法關係區域は其の要塞司令官、第十二師團管下は西部防衛司令官其の他は第六師團長）に對し左記の如き書面を提出其の許可を受けたる後圖面を作製し更に作製したる圖面に付檢閲を受くるを

要するのである。

測量、模寫複寫許可願

本籍

住所

職業 氏 名 印

年 月 日 年 齡

何司令官又ハ何師團長氏名殿

左記ノ通測量、模寫、複寫致度軍機保護法施行規則第五

條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

左 記

（用紙ハ適宜ニテ差支ナシ）

- 一、目的（金銀鑛試掘鑛區設定出願用圖面作製ノ爲）
- 二、區域（何縣郡村大字何及同村大字何面積何坪）
- 三、方法（福岡鑛山監督局備付鑛區圖ノ複寫又ハ平面測量）
- 四、使用器具類ノ名稱（何測量器、何製圖器、等實際ニ使用スル器具機械ノ種類及名稱）
- 五、日時（昭和年月日午前何時頃又ハ許可ノ日ヨリ三十日

以內）

- 六、作業ノ住所、氏名（測量、製圖等實際ニ作業ニ從事スル者ノ住所氏名ヲ書ク）
- 七、作業ノ場所（測量ノ場合ハ現地、複寫ノ場合ハ鑛山監督局ニ於テ一葉複寫シ何市町村大字何番地何某宅ニ於テ四葉模寫外測量ノ成果）
- 八、員數（檢閲ノ爲提出スヘキ原圖トモ五葉）
- 九、其ノ他參考トナルベキ事項（圖面ハ全部テ五葉作製シ内原圖一葉ハ軍部へ提出他ノ四葉ハ鑛業出願ト共ニ鑛山監督局ニ提出）

前記の書類は直接要塞司令官や防衛司令官又は師團長へ提出せず、測量の場合出願地を管轄する憲兵隊又は警察署を經由して差出すべきものであるが、複寫若は模寫の場合出願地を管轄する要塞司令官、防衛司令官又は師團司令官宛に複寫若は模寫を行ふ場所の憲兵隊又は警察署へ提出することを要する。憲兵隊又は警察署にては右許可願の提出あるときは直接申請人の身分其の他必要事項を調査し支障なきものと認めたる時は出願地を管轄する防衛司令官

又は師團長へ申達し許可を受くべきである。

右許可を受けたる上は許可願の要旨に基き誠實に鑛業出願圖面を作製し其の成果の檢閲を受けることを要する。

檢閲を願出る場合は右の様式の檢閲願を添付せらるゝを便宜と思料する。

圖面檢閲願

住所

氏名印

昭和年月日

何司令官 氏名殿

昭和年月日何々指第號許可ニ依り作製シタル測量成果

(複寫圖)檢閲相成度此段願出候也

追テ保管區分ノ儀ハ左記ノ通トシ檢閲ノ結果ノ御指示事項確ク相守違背致間敷誓約仕候

記

一、圖面保管區分

一、一葉何司令官へ提出

一六、四葉何鑛山監督局へ提出

何鑛山監督局に提出したる圖面四葉の内一葉は同局に於て關係官廳照會用として使用せられ、用後は願書に添付十年間保管し焼却する由、他の三葉は鑛業權の設定と同時に鑛業原簿附屬鑛區圖と成り内一葉は鑛區圖の原本として鑛山監督局に備付一般の閱覽に供し、他の二葉は鑛區圖の謄本として一葉は出願人に交付せられ他の一葉は鑛山監督局の事務用として使用する由

以上

測量又は複寫の許可書は圖面の作製を了し檢閲を願出づる際又は許可書に表示せる期限満了したるときは直に返納することを要する。

要塞地帯法第七條第二號の適用を受くる地域(第三區外方三千五百間以内)に於ける出願の圖面作製に付ては憲兵隊若は警察署を経由することを要せず直接要塞司令官へ測量又は複寫の許可願を提出し、許可に基き作製したる上は之又直接其の成果の檢閲を受くるを以て足るものとす。

尙要塞地帯法關係の土地測量に關しては地元村長の字名調査書を要するも、複寫等に付ては之を要せざるもの、様である。

鑛業法第十條第二項に規定せる陸海軍の軍港要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫の周圍三百間以内並要塞地帯第二區及第三區内の場所なるときは、總て前述の手續を要する外同條の許可を受くるを要するものである。

即ち出願地が軍港、要港の周圍三百間以内に該當するときには鎮守府司令官宛に圖面三葉添付し其の圖面に表示したる場所を破區と爲すことの許可を受くるを要し又該場所が陸海軍所轄の火藥製造、火藥庫及彈藥庫の周圍三百間以内に該當するときは陸軍大臣又は海軍大臣宛鑛區と爲すことの許可願に關係圖面三葉を添付し。師團司令部若は鎮守府へ提出し其の許可を受くるを要し、尙又要塞地帯第二區及第三區内の場所なるときは鑛業法第十條の規定に依る所轄官廳は陸軍大臣なるを以て鑛區設定の許可願は陸軍大臣宛に作製し、關係圖面三葉添付の上要塞司令部へ提出すべきものである。

以上鑛業法第十條第二項の地域に於て鑛業權を得んとする者は、その出願前若は出願後三十日以内に鑛區設定の許可願を提出しその許可を受け、鑛業法施行細則第十六條の

期間内(出願の日より三十日以内)に鑛山監督局へ提出を要するものなるも、其の間に所轄官廳の許可を受くることを得ざるときは右申請書を受付たる官廳側は軍港の周圍三百間以内の場合には鎮守府より、又要塞地帯第二區若は第三區なるときは要塞司令部より「鑛業法第十條第二項ノ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面」を受け鑛業出願後三十日以内に鑛山監督局へ提出せねばならぬ。之を忘却するときには鑛業法施行細則第三十九條第四號の規定に依り鑛業出願は却下處分せらるゝものである。

此處で最も注意を要することは、自己の出願地が前記鑛區設定の許可を要する區域なるや否や疑しき場合である。從來の例に徴すれば右様の疑はしき出願に付ては所轄官廳の取扱擔當者の言葉のみで手續を見合せる向があるやうであるが、之は甚だ不心得千萬である。何となれば其の出願地が精査の結果鑛業法第十條第二項の許可を要する場所と認定せられ、鑛山監督局から却下處分を受けたる場合前記取扱擔當者との問答は水掛論となり、出願人自身に何等手續上に関し不注意の点が無かつたといふことの證明をな

すことが出来ないからである。

因て制限地帯附近に於ける出願の際は、其の出願區域中制限地帯を包含せざることが判然たる場合は格別然らざる限り正規の手續を爲し、出願後は三十日以内に許可申請書を受け付けたることの證明書を提出する様留意し、制限地帯管理官廳に於て許可申請の區域内には之を包含せずと認められなるときは書面を以て却下、不受理、返付等の處分を受け、之を出願後三十日以内に鑛山監督局に提出し置かるれば將來に悔を残すことがないわけである。

尙鑛業法施行細則第十六條の規定に依る鑛山監督局へ提出すべき書面には必ず出願圖面を添付し、所轄官廳の檢印を受け置くことに注意して欲しい。是迄も許可書や證明書に圖面が添付なき爲調査上甚しき不便を感じたるのみならず、時としては所轄官廳が鑛區と爲すことを不許可せられたる出願に許可書の提出あり、爲に錯誤に因り鑛業權を設定する場合も生じるのであるから、特に許可書、證明書に圖面添付を希望する次第である。

以上説明し來つた軍機保護法並要塞地帯法第七條第二項

の適用地域及鑛業法第十條第二項の場所に於ける鑛區圖は

如何様の程度に作成すべきであるかと申せば、此点は目下商工省と陸軍省に於て協定交渉中であるから其の取定め後でなければ明言は出来ぬが其の中間的の便宜扱として次の様な程度に官民諸兄へ承認方を希望する。

- 一、鑛區の地域を定むべき基点及測点(標杭とも稱するが之れは舊法時代の遺稱にして實地に標識を存する意にあらず)附近周圍百間以内に限り計曲線(高低線又は地形線)其の他を五萬分の一地形圖程度に表示し他は二十分の一帝國圖を伸圖したる程度とすること
- 二、市街村落は綜描家屋を以て表示すること
- 三、軍事上の施設は一切圖示せざること
- 四、道路は總て二條實線を以て描畫しその他の記號及説明を附記せざること
- 五、鐵道は總て單線を以て圖示し停車場の外は一切圖示せざること
- 六、國防用官有地は圖示せざること
- 七、地類の記號中乾田、水田、沼田の區別を廢し悉く水田

の記號を以て示し、地類の表示も可成粗略とし地類界を窺ふに足るが如き虞れなきこと

八、三角点を基点とせる場合と雖も單に「三角点」と附記しその名稱及標高を記入せざること

九、河川は河岸又は水涯を描畫するに止め附近の地質を省き潤川季節による潤川の區別を除き一般河川の要領に従ふこと

十、橋梁は總て木橋の記號としその他の表示を省略すること

十一、諸水に湖池、貯水池等の區別を廢し總てその形状のみを表示すること

十二、地名及境界は縣、郡、村、大字、小字迄正確にその名稱及境界線を表示すること (以上)

要するに鑛區圖は基点、測点附近百間以外は總て計曲線の表示は省略し市街村落は綜描家屋を以て表し鐵道、道路、河川、湖沼、地名及その境界並に地類、基点としたる三角点、橋梁等以外は可成圖示を省略し前記地物と雖も記號以外の説明を符記せざること調製せられたいものである。

尙制限地帯以外は總て五萬分の一地形圖程度に正確なる圖面を作製すべきことは勿論である。

却説、圖面作製上の注意及希望は此の程度に打切り、次は發見したる鑛物の存在場所認識に於て一言加へたいと思ふのである。それは從來の經驗に徴し、不倣の方が出願を爲す場合専門家に依頼して鑛區圖を作製するに當り、山違ひや谷違ひをして、折角出願した場所が發見鑛物存在箇所とは大分相違し後日取返しの出来ない憾を残すことがあるから注意して貰ひたい。先づ山中に於て鑛床の露頭若ば舊坑を發見したるときは、その場所をはつきり認識して置くことは勿論、ついでに發見鑛物の存在箇所を中心に石炭なれば五萬坪以上の面積を又その他の鑛物なれば五千坪以上、共に百萬坪以内の區域を他人に氣どられぬ様に標識を施し置くか或は又、その附近の見取圖を作製し、念には念を入れて細心の注意を施し誤りなきことを確め、後日専門家をして測量せしむるか、或は陸地測量部發行の五萬分の一地形圖を六千分の一若は五千分の一に伸圖して出願の出來る様に心掛けて置くことが肝要である。

斯くして發見せられたる鑛物に對し、前説明の願書に手数料として消印せざる収入印紙金五十圓也を貼付、鑛區圖四葉を添へ鑛山監督局宛に書留郵便を以て差出せば宜しいのである。

鑛業出願の效力は何時から生ずるか云へば、願書を封入した書留郵便物を郵便局に於て受付けたる時からであるから、その時刻を明確にせられて置くことが必要である。夫れには鑛業の願書は總て引受時刻證明付書留郵便にて差出せばよいわけである。

(未完以下次號)

統制への提言

小池 四郎

政府の經濟統制に喘いでゐる者に二通りある。

一つは、その統制によつて在來通りの利益が擧げられなくなつたのに苦情をいふ連中である。商賣にうま味がなくなつたので面白くないのだ。然し乍らもう一つは國の要求

する統制を甘んじて受ける覺悟を十分に持ちながらも、實施された統制の實際が何分にも余り不條理であり、飛んでもなく欠陥だらけの爲に、全然仕事にならないといふ不平なのである。

この二つの不平不満は、今迄でも既に關係當局にひつきりなしに持込まれてゐるが、このまゝならば今後は一層深刻に喧しくなるに違ひない。政府當局はこの二通りの苦情を立派に分けて聽取るだけの明がなければならぬのだ。前者に對しては勿論斷乎としてはね付けるが、然し後者に對しては衷心その實情を聽取し、自からが素人であつたがための失敗を反省する丈の雅量と眞剣さを示さねばならぬ

自由主義思想から清算し切れず、閉出しを喰はされた現政權にけちを付けたがり、且つ民衆に阿りたがる既成政治家は、後者に屬する誠に尤な苦情を巷間に拾ひ集めて、それをみてくれの看板にし、實は前者のいけ圖々しい要求を

幾分でも達成しようとするに違ひない。來るべき議會にはさうした巧言が洪水の様だに氾濫するだらう。だがそれと同時に、不條理な統制に追詰められた眞の生活の喘ぎが、悲壯な訴へを持たむであらうし、進んで條理正しい統制計畫の代案を提示し、政府現行のものとの交替を要求するものがあるに相違ない。政府當局は以上二者の識別を十分ににして、その態度を一二すべきである。

第一、議會を俟つて論議釋明すると云ふのが間違ひである。經濟統制の大本は、政府當局の企畫すべき所として、その各經濟部面に於ける統制の實際的筋道はそれ／＼の部面に從ふ製造業者、問屋、配給業者等、一切の關係者の衆智を忌憚なく集めて、然る後に立案實施すべきであつた、さうすれば實際に即して生きた統制が生れ、業者が協力獻策したのであるから、業者自身が喜んで協力實行するは勿論、闇取引や違反行爲もなく、それでこそ初めて經濟國策協力の實が擧がるといふものである。

當局とても無論統制立案に當つて業者にも相談したであらう、だがそれは精々日頃仲よしの大製造業者大輸出業者の一部に限られ、問屋筋や小賣業者に相談した事は全然皆無。さればこそ立案が間抜けてゐ、天下り案に感情的な反感を持たれ、従つて裏をかく闇行爲が頻發し、悪徳と苦情とが天下に充滿したのである。日頃から官民協力の實を擧げてゐてこそ、初めて議會は國の大本を協議する眞の翼賛議會に立直るのである。

鑛害賠償及び

調停規定要項

鑛害賠償規定要綱

第一 採掘のため土地の掘鑿、坑水、廢水の放流、捨石、鑛滓の堆積又は鑛煙の排出(以下鑛業の作業と稱す)によりて他人に損害を與へたる時は損害發生の時、鑛業權

消滅せる時は鑛業權消滅の時の鑛業權者はその損害を賠償すべきものとする。損害發生の後鑛業權者その鑛業權を讓渡したる時は損害發生の時の鑛業權者およびその後の鑛業權者は連帶して前項の損害を賠償する義務を負ふものとする。

第二 損害が二人以上の鑛業權者の鑛業の作業によりて生じたる時は各鑛業權者は連帶してその損害を賠償する義務を負ふものとする。損害が二人以上の鑛業權者の鑛業作業の中何れによりて生じたることを知ること能はざる時、又同じきものとする。

第三 第一および第二の場合において共同鑛業權者の賠償義務は連帶とすること。

第四 石炭鑛區の鑛業權者は命令の定むるところにより石炭採掘のための土地の掘鑿によりて生ずべき損害の賠償を擔保するためその採掘したる石炭の數量に應じ毎年一定の金額に相當する國債を供託すべきものとする。石炭鑛區の鑛業權者前項の供託を怠りたる時は主務大臣は鑛業の停止を命ずることを得るものとする。

第五 石炭採掘のための土地の掘鑿によりて損害を被りたるものはその損害賠償請求權に關し第四の規定による供託物につき他の債權者に先立ち辨濟を受くるの權利を有するものとする。

第六 石炭鑛區の鑛業權者その鑛業權を讓渡したる時は第四の規定による供託物に對する權利は讓り受人に移轉するものとする。

第七 左の場合に於ては石炭鑛區の鑛業權者又はその鑛業權者たりし者は命令の定むるところに依り第四の規定による供託物を取戻すことを又るものとする。

(イ) 石炭鑛區の鑛業權者石炭採掘のための土地の掘鑿によりて生じたる損害を賠償したるとき

(ロ) 石炭鑛區の鑛業權消滅後十年を経るも石炭採掘のための土地の掘鑿による損害の生ぜざる時

第八 損害の賠償は金錢をもつて之をなすものとする。但し賠償金額よりも著しく多額の費用を要せずして原状回復をなすことを得る損害については被害者は原状回復の請求をなすことを得るものとする。原状回復を適

當なりと認むるときは前項の規定に拘らず裁判所は賠償義務者の申立により金錢賠償に替へ原状回復を命ずることを得るものとする。

第九 損害の發生に關し被害者に惡意ありたる時は裁判所は損害賠償の責任および額を定むるにつき之を斟酌するものとする。損害の發生に關し天災其他の不可抗力の競合する時亦同じきものとする。

第十 當事者が損害賠償の額を豫定したる場合において其の額著しく不當なる時は各當事者は之が増減を請求することを得るものとする。

第十一 賠償請求權は被害者が損害および賠償義務を知りたる時より三年間之を行はざるときは時効によりて消滅するものとする。損害發生の時から二十年を経過したる時亦同じきものとする。

前項期間が損害發生の進行中の場合においては其の進行の止みたる時より之を計算するものとする。

第十二 鑛夫の業務上の負傷、疾病および死亡に關しては第十一乃至第十一の規定は之を適用せざるものとする。

第十三 第一乃至第三及び第八乃至第十一の規定は其の施行前になしたる鑛行の作業によりてその施行後に生じたる損害にも亦之を適用するものとする。

第十四 本法施行前に生じたる損害にして被害者がその賠償(補償金、手當金、見舞金其他名義の如何を問はず)を受けず又賠償を受けたるもの額が著しく小額なりしものについては被害者は賠償又はその増額を請求することを得るものとする。

第一第一項、第二、第三、第八、第九および第十一の規定は前項の場合に之を適用するものとする。

但し第十一第一項の三年の期間は被害者が本法施行前に損害及び賠償義務者を知りたる時はこの施行の日より之を計算するものとする。

第十五 鑛業法第四十一條および第九十六條中に第四、第二項の命令に従はざる場合を加ふること

鑛害調停規定要綱

第一 鑛害に關し爭議を生じたる時は當事者は調停の申立

をなすことを得るものとする。

第二 調停は司法裁判所において之を行ふものとする。

(イ) 損害の發生地を管轄する地方裁判所を以て管轄裁判所とすること。

(ロ) 申立を受けたる裁判所相當と認める時は他の地方裁判所に事件を移送することを得るものとする。

第三 調停と訴訟の手續との關係に就ては左の如く之を定むること。

(イ) 曠害に關する爭議につき訴訟が繫屬する時は受訴裁判所は職權を以て事件を調停に附することを得るものとすること。

(ロ) 調停申立を受理したる事件に付訴訟が繫屬するときは調停の終了に至る迄訴訟手續を中止することを得るものとする。

第四 調停手續等については左の如く之を定むること。

(イ) 裁判所調停の申立を受理したる時は調停委員會を開くことを以て原則とすること。

(ロ) 調停委員會は調停主任一人および調停二名以上を

以て之を組織し調停委員は特別の知識經驗を有し公正

なる判斷をなすに適するものを以て之に充つること。

(ハ) 利害關係人を參加せしめる途を開くこと。

(ニ) 裁判所又は調停委員會が必要と認むる時は關係官廳其他適當と認むるものに對し意見を求むることを得るものとする。

(ホ) 關係官廳は裁判所又は調停委員會に對し意見を述べることを得るものとする。

(ヘ) 裁判所又は調停委員會は關係官廳其他適當と認むるものに事實の調査の囑託をなすことを得るものとする。

(ト) 調停申立については手数料を徴收することを得るものとする。

(チ) 其他調停手續および效力については小作調停法に準ずる規定を設けること。

第五 調停委員會は當事者の合意ある場合においては爭議につき民事訴訟法の仲裁裁判をなすことを得るものとする。

滿支石炭新市場に

今後如何に對處するか

門司で開かれた日滿支經濟懇談會は各國代表の口述終了後、北九州に取つて最も重要な問題とされる日滿支石炭の現状と將來の統制について貝島合名玉井理事および關東軍參謀秋九少佐との間に次の如き質問應答が交された。

玉井氏 (貝島合名理事) 我が國の石炭は昭和六、七年頃の減産を底としてその後順次回復し殊に事變以來軍需的の重要使命に鑑み業者の積極的協力により増産が行はれてゐる。そして今日の情勢では需給は大體バランスが取れてゐると思ふ。

次に九州炭は全國生産の約六割を占めまた筑豊炭は四割を占めてゐる。かくて筑豊の石炭業者はその大きな責任を自覺し極力増産に當つてゐるので二、三年後には過去二、三年に比し約二倍の出炭を見るであらう。

以上は大體の現状だが更に滿支石炭の新なる市場に對し

て今後如何に對處すればよいか、將來は内地の石炭では不足だから滿支より大いに輸入すべしとなすのは東亞經濟ブロックにおける本邦産業が負ふべき大陸原料活用使命に應へるであらう。

併しまつた一面石炭はその性質上種々困難な問題を伴ひ如何にして低廉な石炭を得るか採掘、輸送の兩條件から色々制肘を受ける、そこには日滿支の石炭が各その市場と用途を妥當的に領つ必要があらう殊に滿支の新興石炭業者と協力統制ある計畫の下に東亞石炭ブロックの圓滑なる發達を期したい。

秋九少佐 (關東軍第四課參謀) 滿洲國の石炭については資源の調査は完了されてゐない、調査済みの分は約三分の一と見ればよいだらう、この分が約百五十億噸の埋藏と推定され日本の埋藏量は約百八十億噸と云はれるか

らこれに比し滿洲國は三分の一の調査で百五十億噸だから今後調査の進むにつれその埋藏量は増加されるわけである。

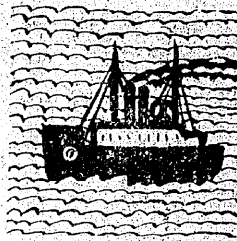
次にコストの問題だが撫順炭は奉天で中塊切込一噸六圓

一七圓であるから日本の大阪に於ける市價を一噸廿五圓

一三〇圓と見れば假令滿洲よりの輸送費を考慮に入れても極めて低廉といふべきであらう、

殊に注目すべきは阜新の石炭である。幅八キロ深さ廿四キロの地下悉く石炭にして、その龐大さには調査に當つたアメリカのメイン博士が驚嘆したといふ。現在年三十萬噸の出炭である阜新と胡盧島とを結ぶ鐵道を能率的にすれば輸送費も安くて濟むから世界で一番安い石炭が得られるであらう。

この安い石炭が日本の石炭に如何なる影響を與へるか滿洲の石炭と北九州石炭とが如何なる統制の下に配給を行はるべきかは本會議に提出される最も重大な問題であらうが、これに對しては未だ何とも確答することが出來ない。



石炭船運賃

一、汽船運賃

イ、遠洋

倫敦市況は總体到手堅い商狀を呈してゐるが、本邦中心の各航路は漸次に船腹の余裕を生じ爲に運賃も牙えず大連—歐洲大豆二月積は二十六志三片見當である。

ロ、近海

小型船の需要は相變らず旺盛なれど大型フリー船の市場に現はれるものが相次ぎ、爲に運賃も下押しの氣味であり航路によつては可なり低率の商談を見てゐる。海運景氣も昨年を絶頂とし本年は相當の警戒を必要とするは一般の一致した意見である。

滿洲炭が日本の石炭を脅すことが十數年以内にあるかどうか見透しが出來てゐない現在日本は不足炭に對して滿洲が十分供給出來ないといふのが實情で滿炭の開發もまだそう急速には進まない。

我國に於て、石炭の始めて現はれたのは、隨分昔からのことらしい。天智天皇の御宇、越後に燃ゆる土が出たといふのが一番古い文獻である。

色は褐色で、臭い煙をあげて燃えるといふから先づ石炭の類に間違ひあるまい。

後、燃ゆる石と呼ばれて、漸次世上に知られるやうになつて來たが、更に燃ゆる石は焚石と名稱を變へた。燃ゆる石から焚く石へ。今まで燃えるといつて珍らしがつてゐた人間が、之を利用すの途を發見した道程が見へて面白い。

(日本石炭誌に據る)

従つて大口商談の如きも荷主の日和見態度と目光弱氣とに相俟つて表面化するに至らない。兎もあれ我國獨特の海運景氣もこの處或程度修正されるであらう。

ハ、石炭

新規の商談は弗々あれど大型船の増加により運賃は下り坂で若松—京濱四圓二、三十錢若松—仁川も昨今は辛くも四圓臺を維持する状態である。

最近運賃は若松より

仕向先	今月中旬	前月中旬
京濱	四、八〇	四、八〇
川崎	五、三〇	五、三〇
伊勢灣	四、三〇	四、三〇
大阪川入	三、三〇	三、四〇
敦賀	四、三〇	四、三〇
仁川	四、三〇	五、五〇

(一月十四日迄の海運特報に據る)

二、帆船運賃

船腹飢饉は出炭最盛期に入りたる關係上益々深刻化し、天候の不順と船員の不足は之に拍車を加へ運賃は益々強調にして三圓六十錢の十四錢方の値上を見た。

一月若松港協定運賃表

若松石炭荷主聯合會

單位一噸ニ付

仕向地	運賃	前年同期	仕向地	運賃	前年同期
和歌山縣			岡山縣		
由良	三、六六		牛窓	三、六六	
和歌山	四、七〇		岡山	三、九〇	
大阪府			宮ノ浦	三、九〇	
樽井	四、四〇		小串	三、九〇	
佐野	四、四〇		宇野	三、九〇	
堺	三、七一		日比	三、九〇	
兵庫縣			味野	三、九〇	
尼ヶ崎	三、六〇		笠岡	三、九〇	
神戸	三、六〇		廣島縣		
明石	三、六〇		福山	三、九〇	
三見	三、六〇		鞆	三、九〇	
高砂	三、六〇		尾ノ道	三、九〇	
木場	三、六〇		三原	三、九〇	
			阿賀	三、九〇	

網干	三、九〇
相生	三、九〇
片上	三、九〇
赤穂	三、九〇
那波	三、九〇
鹿忍	三、九〇
岡山川入	三、九〇
幸西	三、九〇
彦崎	三、九〇
玉	三、九〇
田ノ口	三、九〇
玉島	三、九〇
福山川入	三、九〇
因ノ島	三、九〇
米崎	三、九〇
竹原	三、九〇
吳	三、九〇

廣島川入 三、六六 宇品 三、六六

山口縣

岩國 三、六六 今津川入 三、六六

徳島縣

徳島 三、六六 小松島 三、六六

香川縣

小豆島 三、六六 高松 三、六六

坂出 三、六六 丸龜 三、六六

多度津 三、六六 觀音崎 三、六六

林田 三、六六

愛媛縣

川ノ江 三、六六 西條 三、六六

新居濱 三、六六 壬生川 三、六六

今治 三、六六 菊間 三、六六

堀江 三、六六 高濱 三、六六

三津濱 三、六六 長濱 三、六六

宇和島 三、六六 八幡濱 三、六六

運賃ハ歩合ニテ上下二二分ヨリ一四錢上リ

備考

一、各地行共二五〇噸以上ハ上記運賃ヨリ噸三錢引キノコト

二、各地行共陸下ゲ瀬取ハ上記運賃ヨリ噸三錢引キノコト

三、大阪行ニシテ荷揚ゲノ際篩分ケスルモノハ上記運賃ヨリ噸三錢増シノコト

四、補助帆船並ニ發動機船積貨運賃率ハ本表ノ(一)割増シノコト

五、指定仕向ケ先ヲ荷主ノ都合ニ依リ變更シ又ハ二港以上ノ積揚ゲニナリタル時ハ相當ノ割増シヲ申受ケル事

(重量嵩物ハ其都度協定スルコト)

但シ一港ニテモ二ヶ所以上積揚ゲニナル時モ同シ



常識大學講座 (三)

英の對日壓迫論

イギリスの有力經濟新聞フアイナンシャル・ニュース紙は五日の紙上に無署名の論説を掲げ平沼内閣の實現に伴ひ對支政策の強化に備へ對日經濟壓迫の必要を力説して左の如く論じてゐる。

日本は更にフアンズムへの途を一步前進したとの報についてはイギリスの將來の對支貿易並に在支權益にとつては決してよい前兆ではない、これらの事實は日本軍部の不當の態度と相俟つて、日本が満足するのは第三國を全部締出して全貿易資源を獨占し、門戸開放政策を永久に終焉せしめる以外にない事を明かならしめた。現在の支那の地方政策は人民の信頼をかち得てゐないの

で活動が充分でないが、日本が勝利を収めた曉には滿洲國政府に倣ひ強力なる傀儡政府が確立されやうし、又通商政策は滿洲國政府の政策と完全に軌を一にするものにならう。

従つて以上の結果を招來させぬためには凡ゆる犠牲を拂つても防止しなければならぬといふ事は強く主張する事が出来やう。もし日本が完全にその目標を築き上げたならば日英間の正面衝突は不可避であらう。クレヂットの形式で蔣政権に經濟的援助を與へることは日本の帝國主義目的に直接挑戦すると同様の効果があり而してその費用は僅かですむのである、この際イギリス

政府としては目下日本に對し相當輸出されてゐる武器其他重要資材の輸出禁止と同時に日本からの輸入をも禁止する等の徹底した措置に出る必要があらう。

グアム島

去る十二日、大統領の國防特別教書が議會へ送られ、今月末には海軍根據地擴充案が下院に提出されること、なつて本年に於ける米國の再軍備計畫は最近にない速度で進まうとしてゐる、中にも注目を惹くのは、新しい海軍根據地擴充の中に「グアム島」の要塞化計畫である。

グアム島は南洋群島のマリアナ群島の南島にあり珊瑚礁に圍繞されてゐる島で面積約五〇〇方呎、南部は山岳性で高所は標高四六〇米に達するが、北部は珊瑚礁より成つて平坦である、森林繁茂し、ココ椰子、パンの木、米、砂糖、藍等が栽培せられるが、米國は一八九八年米西戰爭の結果、同島を其所有として以來、海底電線の重要な中繼地としてばかりでなくその政治的、軍事的意義を重要視し之れが巴里媾和會議に基く我が國のヤップ島委任統治に對

しても無條件の承認を拒むが如き態度となつて現れた、而してグアム島は直線距離でヤップ島まで約八〇〇哩、小笠原群島まで約八百哩の地点にあり、單なる消極的意味からしてもハワイの前衛陣地として多大の軍事的意義が附せられる。

現在、米國はグアム島に飛行中隊一ヶ中隊を警備のめ駐屯せしめることになつてゐるが、今次の擴充案はグアムをハワイに並ぶ小「ジブラルタル」とするといふ大計畫で、有事の際に於て太平洋における艦隊活動を自由にするといふ大掛りなものだから、その成否は多くの關心が拂はれてゐる。

英領植民地閉鎖論

イギリス政府が現在議會で審議中の輸出信用保證擴張案により近く蔣政権に對して借款を與へる意向と傳へられる折柄十九日の保守黨系のデーリー・エクスプレス紙は極東問題に關する社説を掲げ、蔣政権を財政的に援助するよりも日本商品に對して英領植民地の門戸を閉鎖する方が効果が

多い旨左の如く論じてゐる。

イギリス政府は日本政府が支那の表口を閉鎖したのに對し支那の裏口をイギリス貿易に向つて開放せしめるため蔣介石政権に借款を提供する意向と傳へられるが、一方日本は自己の輸出商品を植民地諸國の表口に送り込むことに努めてゐる。

この際吾人の取るべき道は支那市場の裏口をイギリス商品のために開けることなく、イギリス植民地の表口を日本商品に對して閉鎖することであり、吾人はこの政策を採用する権利も能力も持つてゐるのだ若し五〇人がイギリス帝國市場の表口を閉せば間もなく日本は支那の表口を再びイギリスに對して開くことに同意するであらう。

大統領教書

本年も開會劈頭ルーズヴェルトが米國議會で朗讀した一般教書が國際的反響を捲き起し、次いで公表せられた豫算教書に對しても米國內外からも種々の批判が加へられてゐる。

米國大統領の一般教書朗讀は我が國の總理大臣施政方針演説にも比すべきものだが、米國の有する國際的地位がこれに對して世界的意義を與へるものである。

大統領教書は米國における三權分立主義の産物であり、大統領及び行政各部の長官が議席を有せず、全く議會の外に置かれてゐる結果生れ出た点に特色がある。

米國大統領は日英兩國の總理の如く行政の首長として臨時議會へ出席して政府の政策を説明し、議員の質疑に應答することは許されず、僅に憲法第二條に於て、議會に對する政務報告、立法上の注意喚起を行ひ得るのであつて、いはゞ米國政府は大統領教書によつてのみ議會の立法を要請し得るに過ぎない。

かゝる憲法上の規定に従ひ、毎年大統領は種々の緊急問題（最近では主として經濟關係）に關して教書を送り、議會の立法を求め得るのであるが、大統領はこれ以上議會に干渉し得ぬ爲、教書の趣旨が實現するか否かは一に時の議會の空氣如何に懸つて來ることとなる。

イタリ―新議會法

イタリ―政府は過般、明年三月十九日を期し新議會法に基く組合フアツシヨ新議會を召集するに決定したと傳へられる。

一九二二年フアシスト民兵のローマ進軍以前既に先進民主主義國の皮相的模倣に過ぎなかつたイタリ―の議會政治は社會黨議員マテオツチ暗殺後その權能をフアシスト黨大評議會に奪はれ、一九二八年には民主主義的性格を全く喪失した職能選出制の現行下院議員選舉制が創設された。

即ち候補者推薦の權利を有するものは公認の資本家及び勞働者團體其他合計九公認職業組合であり、その全推薦候補者中から四百名の議員定數と同數の候補者を選び、これを一括して投票に附するが、投票者は單に「賛」又は「否」のみを表明することが許されるだけである。

新議會法においてもこの選舉制度は維持され、唯議員の名稱が「國家委員」と改稱され、この國家委員が二十五名

乃至四十名から成る十二の各専門委員會を構成し、本會議前に夫々の會議を開催し各種立法協賛の豫備行爲を完成、然る後本會議を開き議會の最後の協賛を経ることになつてゐる。

國民登録制

本年一月二十日を以て實施された國民職業能力申告令所謂國民登録制による申告義務者の中に、厚生大臣の指定する職業に従事する者と云ふ一項がある。

この指定された職業の中に、採炭夫、炭坑支柱夫等が擧げられてゐることは大いに注目しなければならぬ。

國家が如何に石炭生産を重視してゐるか、充分に認められると共に、斯業の第一線に起つ坑夫諸君の大なる自覺こそ、現下社會の最も希求して己まぬところである。

藤井鑛業が

日滿鑛業と合併

東京に本社を置き九州炭界に飛躍しつつある藤井鑛業株式會社は客年未だ同じく東京に本社を有する日滿鑛業と合併すべく内々折衝しつゝありその噂あつたがいよいよ本年一月一日より兩社とも合併の形式にて營業を繼續し目下合併に要する諸般の手續を準備中なること確實となつた。

而して兩社合併の曉は千七百五十萬圓の大鑛業會社として君臨する事となるが今の會社の内容を見聞するに合併の相手會社たる日滿鑛業は現在一千二百五十萬圓の大會社でありこれに五百萬圓の資本を以て對等の合併を遂げた藤井鑛業の内容が如何に隆々たるものになつて居たかは想像される、新會社は今後日滿鑛業の名稱にて本社を東京に置き石炭鑛業に關する事業は若松支店を中心に従來同様藤

井系統に於いて支配する事になつた一方五ヶ年繼續事業として四千八百三十一萬圓の投資を以て十五年中に完成十六年より日々二千五百噸の鉛と亜鉛を採掘し得る傍系會社滿洲鉛鑛株式會社を足場として大陸進出の一大理想を達成し得た藤井鑛業の前途は洋々たるものがある。

因に新會社の重役は社長白城定一重役藤井伊藤、藤井則文、千葉長西木弘雄の五氏として業務課長の重席には元藤井鑛業支配人たりし西兵四郎氏が坐ることになつた。

(九州日報)

二島に口を開く

三本の地下隧道

若松市の海の支關に若戸海底トンネルが開通すると同時に西若松の支關「二島」に地下トンネルを開けることになつた、これは例の日産化學工業會社の黒ダイヤトンネル

で、同社ではすでに新春早々二島沖海底のボーリングと陸上の測量に着手した。しかもトンネル掘鑿は二島側からで、若戸トンネルよりも一足お先に來る四、五月ころ着工の豫定といふ張切りぶりだ、東の若戸海底トンネルが工費五百五十萬圓に對し西の黒ダイヤトンネルに總工費二千五百萬圓、昭和十七年中には完成の計畫である、まるで若松は「東西トンネル競争」で拵み整うである。

日産化學のトンネルは既報の若松市島郷の頓田區に高松炭鑛第三坑を開けて年間約百萬噸の増産計畫に伴ひ總出炭二百五十萬噸を目指してゐる、出炭送炭設備の統制合理化による近代的機械設備で

遠賀郡水巻村の高松炭鑛と二島開延約六キロの地下トンネルに(幅員十六尺)三本を貫通させ、工事は二島からの開鑿道と高松炭鑛の坑道とが地下で出會つて開通するもので、往復道二本と換氣道一本

となる

従來坑内で採掘した石炭は坑外に搬出して選炭の上貨車で送り出してゐるが、同坑では坑内の採掘炭をそのままメイン地下道に集炭し地下で選炭、二島に出る時は黒光の製品となつて出る、トンネル内は全部ベルトで運び無駄足はチツともないさ誇る新施設である。

同社では二島の所有地十三萬坪にさらに必要な買収用地を合せた十六萬坪に油化工場、積出設備、汽船横着の岩壁を築造する。

本紙で各方面の識者が發表した「若戸海底トンネル活用指針」は即刻實行時代である事を裏書する殷賑産業の増幅である(大朝)

二百萬噸の北支炭

上半期に是非必要

原料炭の供給不足は愈々深刻となり來る四月―九月の上半期の石炭割當證明書交付に當つては相當苦しい遣繰を行はねばならぬとし昭和石炭では炭繰に頭痛鉢巻の體であるがかくの如き原料炭不足の折柄速かに最

小限二百萬噸程度の北支炭(開平炭を除き中興炭其他原料炭)の輸入を確保すべしとの聲が最近需給兩者から痛烈に叫ばれてゐることは極めて注目される、即ち

原料炭の内地増産は勢力、機械資材關係から多くを期待し得ず殊に洗炭能力から見れば極めて悲觀的であるから此際北支に石炭の適性利用を合理化し大同其他燃料は極力増産し、中興、中徑炭の内地輸入の穴埋として尙ほ燃料が不足するならば内地産物或は滿洲炭の輸出を増して内地の原料炭不足を緩和すべしとするものである (日刊工業)

石炭輸送賃

互助會と西九州海運の打合せ

不統一な石炭運賃を統制するため石炭鑛業互助會肥前支部と西九州海運業組合との石炭輸送トンナリ運賃協定協議會は十三日午後一時から佐世保商工會議所で開催

互助會から吉原支部長安西理事海運業から木原理事ら全部出席若松港協定運賃を基準に協議した結果

唐津港は二圓六十錢平月以西は二圓各増に決定した、なほ毎月協議してその月の標準運賃を決定することになつた (福日)

大阪工業會が

石炭需給調査

畿内政府は昭和石炭に對し炭價引下命令を發したがこれが實効を見るに右は單に最高價格の引下に留る結果實際取引値段は何等の統制なく殊に配給は依然として不圓滑であり却て炭價高に拘らず増産計畫は順調といへぬ情勢にあり大阪工業會では二十三理事會を開きこれが對策につき協議することになつた

而して同會の推定に依れば事變前に於ける昭和十五年度豫想需要量は七千萬噸であつたが事變發生以來生産力擴充の飛躍的發展に依り本年度は七千萬噸を遙かに突破すること確實となり今日の實狀は眞に憂慮すべき状態にあるので從來増産計畫の再検討をなすと共に政府は石炭生産能力調査委員會を設け石炭埋藏量炭種別性分調査に併行し炭種別需給調査を確立

して消費の合理化徹底を圖る以外に方途なしとし今後この方面の調査に主力を注ぐ豫定である
(九州日報)

鉄鋼配給上の

不合理是正に乘出す

生産地にながら地元で仕絶へず一度送られた大阪方面から逆輸入する事によつて始めて入手するといふ鐵鋼配給が生んだ需給關係の不合理を是正すべく既報の如く立上つた若松商工會議所では十二日午後一時半からは正運動に關する懇談會を開催
會議所側から正副會頭久野、川上、白石の各委員、關係業者側から東海鋼業の伊藤氏を始め製鋼機械工業組合役員八名出席
實際問題として現在の鐵鋼統制がいかに配給上不合理と不便を與へてゐるかの點が中心となつたこのため會議所では北九州各市會議所によびかけ一方關係業者の協力を待つて近く商工省始め關係方面に向つて鐵鋼配給上の不合理是正運動に乘出す事になつたが同運動は獨り北九州のみの問題でなく

物資統制の過渡期に於ける派生的問題として注目されてゐる
(九州日報)

鑛山労働者の

標準賃銀と生活刷新

商工省鑛山局では國家總動員法第六條の標準賃銀制定ならびに股賬産業労働者の統後生活刷新運動に關して鑛山労働者もその對象とされてゐるのでこの程厚生省との間に右の實施に關する打合せを行つた結果、以上二つは商工省の所管事項と決定したので明年度追加豫算に右に關する豫算を計上、左のごとき方法で實施することとなつた
一、鑛山労働者の標準賃銀制定については各鑛山監督局並に官吏事業主、従業員、學識経験者を委員に賃銀委員會を設置し地方の實情に即した賃銀を制定する
一、鑛山労働者の統後生活刷新に關しては工場労働者の場合と同じく作業上毎に刷新班を設け講演會、講習會等により修養を行はせる
(大毎)

鑛山行政を刷新

監督局の機構改革決る

重要鑛物増産時代に即應じ鑛山行政の刷新をはかるため商工省では既報のごとき鑛山監督局の機構を改革、擴充することとなり鑛山局において具體案を研究中であつたがこの程は決定を見るに至つた、即ち現在の鑛山監督の鑛政、鑛業の二課制乃至分析を加へた三課制を總務部、管理部の二部制に擴充、部のもこと
總務部 總務部△出願課△勞務部
管理部 指導課又は施設課△調査課△鑛業警察課
の六課を置き従来の監督行政に偏し勝ちな鑛山行政に指導助成の性質を多分に盛つて鑛物増産に遺憾なくらしめることになつて居り、なほ右の内容の變化に應じ鑛山監督局の名稱も地方鑛山局と改稱される筈である
(日刊工業)

原料炭需給打合せ

商工省と昭和石炭

商工省及昭和石炭では原料炭不足對策に關し別項の如く之れが協議を續けてゐるがガス原料炭供給は相當程度制限すべくこれが研究を開始した、即ちガス料金は事變以來引上げられて居らぬにか、はらず炭價は事變により續騰を續け遂に標準價格制定となつたに鑑みガスの需要は激増し、勢ひ原料炭の需要が増加してゐるがガス需要増の内容を檢討して見れば重油、石炭を焚くよりも安價で且つ手に入り易いといふ點から時局から見て使用を制限しなければならぬ方面へガスが相當多量に流用されて居りこれは結局形の變つた石炭需要であるからこれを制限すべしとし供給制限を行はんとするものでガス會社の原料炭手當は益々困難を加へる模様である
(福日)

瓦斯原料炭供給

相當削減されん

本年度(四月以降翌年三月の二期)に於ける製鐵用ガス用原料炭の需給關係は十三年度中に於けるそれよりも一層逼迫するこゝは必至と見られてゐる鑑み商工當局は之れが對策に關し昭和石炭首腦部と十日午後二時東京丸の内昭和石炭會社會議室にて需給調整打合せを開催した、而して出席者は商工省側から物資調整局の中村横田兩事務官及び係官二名、昭和石炭側から澤田常務以下部課長四名出席して昨年度の需給實績を基礎に出炭増及び需要増を豫想して原料炭の需給調整に關し意見の交換を行つた、之れが具體策に關し左の如き意見の相違がありその成行は重視される、即ち昭和石炭側の意向は
一、原料炭不足緩和の根本方策は消費節約を行ふ一方積極的増産を行ふべきでこれ増産遂行の爲めの労働者、機械、其他増産資材、供給、運輸の圓滑化等の諸條件を他に優先便宜を圖り以て積極的増産を行ふべきである
二、右は根本對策であるが本年の應急措置として原料炭の價格を相當程度(洗炭經費)引上げれば原料炭の供給高は増加す

對日輸入中興炭

青島で貯炭

製鐵、ガス用原料炭の不足せる現狀に鑑み

(日刊工業)

商工省は中興炭の輸入を計畫し目下物資調
整局中村事務官を現地に派遣し北支石炭状
況を調査せしめ輸入の急速實現を期してあ
るが現地軍當局としても内地の石炭状況よ
り出來得るならば内地輸送を行ふ目的で十
一月十日頃から一日平均十貨車(約三百輛)
程度を青島に輸送し貯炭を開始した即ち
中興炭は目下中興公司の手により日産
一千噸乃至一千五百噸を出炭してゐるが
積出港として最も近距離である連雲港へ
の輸送は敗殘兵集結のため不可能なので
逆に濟南を経由して不凍港たる青島に貯
炭を開始したものである、然し北支は石
炭飢饉であり御用船及び軍事輸送汽車の
パンカに供されるものが大部分で内地向
けは今年中は見込薄である。(中外商業)

賠償調停を骨子に

鑛業法改正案成る

商工省では現行鑛業法改正のため昨年十月
鑛業法改正調査委員會を設置し、特別委員
を擧げて兩來十八回にわたり協議を重ねた
結果、このほど大體の結論を得るにいたつ

大阪工業會が 石炭問題で會合

今や事變も新事態に入り長期建設が行はれ
ることとなりこれが建設資材を供給する意
味からもまた現下の國際情勢に對應し國防
經濟を充實するに云ふ意味からも生産力擴
充が緊要視されるに至つたが全産業部門の
根幹をなす石炭の増産につき最近種々の論
議が行はれてゐるので大阪工業會では客月
廿三日正午より同會事務所燃料委員會を
開き郡島正治氏より現下の石炭諸問題につ
き實情を聴取の上

昭和石炭の炭價引下以後の炭價の趨勢
△石炭増産計畫の再検討
などにつき審議する事となつたが場合によ
つては全大阪工業人を代表する同會より政
府當局に對し石炭問題につき何らかの決議
を行ふものと見られて注目される

(日本燃料)

帝燃の樺太液化工場

明春三月頃具體化

帝國燃料興業では樺太封鎖炭田を原料とす

たので十四日午後一時より東京會館に委員
會總會を開催、鑛業法改正要綱を特別委員
會原案通り可決商工大臣に答申した、よつ
て商工省ではこれに基づき改正法案を立案
の上來議會に提出することとなつた改正法
案は鑛害賠償規定および鑛害調停規定の兩
者を骨子とするもので、從來民法の規定に
より鑛業發生の原因が故意か或は過失かに
よつて鑛業者の被害者に對する賠償義務の
有無を決定してゐたので、今回の改正法に
よつて故意たるを過失たるを問はず賠償を
命じ得ることとなり急速なる生産力の擴充
に伴ふ鑛業災害を防止するに多大の効果を
もたらすものと期待される、尙委員會で問
題視されてゐる砂鑛法の廢止、試掘權の存
廢鑛業警察の獨立、鑛業權の賃借權などの
重要問題は後日廻じなつた、委員總會で
決定せる鑛害賠償規定要綱ならびに鑛害調
停規定要綱中に注目すべき點は第一(鑛
害の範圍)第二(賠償義務者)第四(石炭
鑛業者の國債供託)第五(石炭鑛害の被害
者の先取特權)などである

(參考欄記載)

る一大液化工場を設立すべく準備を急いで
ゐるが明年三月頃具體化するものと見られ
てゐる、即ち樺太封鎖炭田を開發するには
法律案を伴ふので來議會で同法案の成立を
待つて急速に實現せしむる意向であるが、
の液化工場は北海道人造石油がアイツシヤ
法を中心とせるに反し樺太炭は水素添加の
原料炭として最適であるところから水添を
中心とする液化工場が設立される筈である
然し樺太は冬季作業困難、地理的條件の
不利等から資本の獲得に相當障壁がある
さいふべきであるが帝燃は飽くまで初志
を捨てず北海道入石の十萬噸生産能力程
度のものを設立する方針である

(日本鑛業)

開平炭明年年度輸入

二百五十萬噸か

原料炭の不足する現状に鑑み開ラン炭販賣
會社では開平炭輸入契約更改期を機に本年
度(四月以降來年三月末)輸入契約百七十萬
噸を來年度に於いては二億百萬噸増の二百
七十萬噸を獲得せんと意氣込み十一月二十

上山田後藤寺間

鉄道新設促進

嘉穗郡上山田町後藤寺間鐵道敷設期成同盟
の代表四名は十三日門司市役所に阿部市長
を訪れ鐵道省門司鐵道局等關係方面に提出
する實現促進要望の陳情に賛同方を懇請す
るころあつたが同鐵道は上山田後藤寺間
を繋ぐ値が八キロの距離であるが現在小倉
市を中心として輿論を昂めて居る小倉島樫
直線路に包含されるものであり上山田を中
心に附近にある約五十餘の炭坑が生産する
年間約五萬噸の石炭は現在飯塚、直方を經
て若松へ送炭して居るのをこの新線路が敷
設されれば田川線に連續行橋を經て市田港
或は小倉鐵道に連絡して小倉門司にも輸送
される重要路線で運賃も市田港へ輸送する
より一噸當り二十五錢も輕減し石炭消費
の蒙る利益も莫大なるものである尙一朝有
事の際筑豊線に故障を生じ石炭輸送不能に
陥つた場合の輸送路ともなり産業、經濟上
にも國防上にも重要なものである

(九州日報)

七日より三十日に至る四日間開ラン炭礦社
長ネーサン氏の滯京中笠原販賣會社常務は
これに就いて種々協議を重ねた、即ち販賣
會社では新規購入炭價は本年のそれに比し
或る程度引上げを覺悟し、たとへ一噸でも
澤山輸入せんものと強引に折衝を續けたが
ネーサン氏は過般來本國に歸國し増産の進
捗状況を見てゐないところから確答を避け
二、三週後再訪日を約し同三十日渡支の途
に上つた、右について笠原常務は左の如く
語つた

當社は一噸でもよけいに輸入し原料炭不
足を緩和する積で二百七十萬噸を要求し
た、これに對しネーサン氏は昭和六、七
年頃の不況時代より日本の好意を受けて
居り、目下着工中の百萬噸増産計畫並に
これに伴ふ洗炭機二基(洗炭能力百七十
五萬噸從來合せ二百五十萬噸)増設も
日本の需要増に應ずるため着々進行中で
あるから出來るだけ御趣旨に副ふ積りで
ある、然し何分にも長い間歸國してゐた
ので何日頃増産の實効が現はれるか不明
であるからこれを調査の上回答したい、
英本國でも支那事變中に於いても代金の

一部はバンドで支拂つてくれる日本側の措置に財界は非常に好感を持つてゐるから、値段の點でも飽迄も紳士的に商談を進めたいと述べて極めて好意ある意向を表明してゐるから、要求額全部さしふ譯にも行くまいが二百五十萬噸位は契約出来る模様だ。

尙ほ増設中の洗炭機は來年下期には活動出来る由である。

(日本燃料)

東洋炭礦を設立し

宇部沖合の炭層開發

石炭増産の時局的要求に伴ひ宇部炭田に於ては休眠炭層の開發、群小炭層の整理統合等により合理的増産に努めてゐるが、今回宇部炭礦株式會社(本山炭礦)常務取締役竹中雪藏氏によつて宇部式組合組織により宇部市沖合千六百萬坪の處女炭層を開發すべく東洋炭礦を設立資本金二百萬圓第一回拂込金を六十萬圓を以て試掘に着手することとなつた。

同炭層の開發は一哩位の沖合にある亀ヶ瀬を基點として築島計畫によるもので懐

重なる準備を必要とし斯界の注目と大なる期待がかけられてゐる尙同炭層は一切見初炭層九千萬坪、御嶽石炭炭層三百五十萬坪、福永炭層所有炭層百廿萬坪、第一川炭層二百七十萬坪、其他を買収して竹中氏自身の炭層宇部川炭層四百萬坪とを統合したもので、出資社の主なる者に京都市株式店主小林又一郎氏の廿萬圓出資等があり、阪神方面財界人の出資が特に目立つてゐる。

(日刊燃料)

阪神電力業者

燃料炭手當に悩む

大阪に於ける家庭用炭市場が年末を前にして品切れ懸念を生じつゝ、ある燃料炭として大量の石炭を必要とする阪神地方電力業者は明年三月、日本發送電氣會社への貯炭引継ぎを前にして悩み續けてゐる上に、明年早々よりの用炭手當に懸命の努力を拂はなければならぬ現情に置かれて昭和石炭始め大手筋業者と頻りに折衝してゐる此品薄状態は軍需諸工業の活況に伴ふ電力消費漸増による燃料炭増加も一因であるが開平、撫

順を始め漸支諸炭の大阪向杜絶乃至漸減が重大因をなしてゐるものとみられ、これがため明年三月末に於ける發送電氣會社への貯炭引継ぎ額百萬噸の實現にも支障を來すのではないかと懸念されてゐる。

(日本炭業)

慶源輝春附近の

大炭田探掘計畫

慶源、輝春附近一帯に亘る大炭田は滿洲炭業會社の手により十一月上旬探炭に着手し現在一日約五十噸を採掘してゐるが年産百萬噸を目標に大計畫が進められてゐる。

この炭層は東西六里、西北六里に亘る大炭田にして埋藏量約五億噸といはれ炭質は六千カロリー、優良炭である。

(日刊工業)

發送電需要炭

一手引受拒絶

昭和石炭で内定

日本發送電氣會社は愈々來る四月一日より

事業開始の運びとなつたが本年度(本月四月一日より明年三月末日まで)におけるこれが火力發電用石炭の需要總額は五百二十萬噸を豫想され、その石炭調達につき同社はこの程昭和石炭に對し年度契約締結の申込を行つた。よつて昭和石炭で通過來これが對策を考究中であつたが何分從來の火力發電用石炭の總需要額に對し昭和石炭の手を通じて供給される分は約四割に過ぎず残りの六割はアウトサイダーによつて賄れて來たのであるが、今回日本發送電が希望するが如く同社の總需要を昭和石炭で一手に引受けることは至難であるとの見地からこれを拒絶する方針に内定した。

但し昭和石炭は引受可能數量の範圍内で發送電と年度契約を結ぶことには異存ないので近くこの旨回答する筈である。

(福 日)

西田、筑前大二坑

開坑以來事業好調で
年産一萬噸近く實現

福岡縣嘉穗郡稻葉村鳴生西田筑前炭坑第二

坑は、従業員總數百二十人(内坑内夫六十二人)昭和十三年八月開坑着手、炭層は鳴生五尺新五尺の二層で目下役々所のみ採掘し、本卸運卸共延長間數約百五十間、現在出炭四千噸位で一萬噸を目標に進行してゐる。

主なる建造物は

- 一、捲揚機械百馬力 一臺(据付完成)
- 一、事務所(坪數六〇坪) 一棟
- 一、配給所(坪數五〇坪) 一棟
- 一、勞務事務所(キャンプラン室共) 一棟
- 一、従業員住宅(六六戸) 十一棟
- 一、職員住宅 三棟

既に完成され、移轉を終つたが尙石炭積込は筑前庄内驛に目下施設中である。

(嶺山勞友新聞)

大體二百十七萬噸

十四年度開採炭對日輸出

開採炭の十三年度對日輸出數量七十萬噸は同年度最高調な場合の出炭豫想五百四十萬噸を基礎として契約した數字であつたため昨年三、四月のストライキ、七、八

月の動搖に際してはその實現をすこぶる危ぶまれたが、その後の記録の出炭増加により最近やうやく全部の契約量の引渡し確信がつか改めて十四年度の對日輸出數量契約の時期に入つたため近く開採炭對日輸出の經理が日本に赴き内地の代理店たる東京開採炭販賣會社との間に折衝を開始することになつた。

日本側としては、十四年度の對日輸出數量としては三百五十萬噸を要求してゐるが、爲替問題は別として出炭豫想量から見てこの承認は頗る困難視されるので契約取極めまでには相當迂餘曲折は免れない様子である。

すなはち開採炭側としては東亞の新情勢を認識してわが方に協調的態度に出で昨春秋の重役會議の決定により最初の北支への外資導入として好感をもつて迎へられた同社の一千萬圓の新投資により、この春より現在の出炭能力五百四十萬噸を六百萬噸に引上げ洗炭設備の現能力六十萬噸を百五十萬噸に専用貨車六百台を七百台にそれそれ増加する各種工事に着手の手はずを決めるなど増産には積極的な努力を拂つて以

あるが、十四年度の出炭量は最高六百萬ト
ンと豫想され、このうち特粉百二十萬ト
ン洗粉八十萬トから日本内地以外の必需量
三十三萬トンを差引きこれに一號、二號粉
五十萬トンを加へた計二百十七萬トンを對
日輸出の最高量と見られる。

しかし鐵道用開ラン需要炭その他につい
て代用炭の問題を解決すれば相當量の對
日増加は必ずしも不可能でないことに重
點を置いて右二百十七萬トンと三百五十
萬トンの開きを縮小するやう交渉が續
けられるものと観測される(大阪朝日)

石炭文庫

若松市圖書館の石炭文庫は、九大永積教授
其他の協力により、其の後本の數も一二八
冊となり、それに参考資料として鑛業會月
報、互助會報の綴を加へ段々其の陣容を
調ふるに至つた。

石炭で保つ若松に石炭文庫の創設は當然と
言へば當然であるかも知れないが、他の都
市には一寸聞かないだけに、市民として聊
か誇りを感ずるものである。

「本年度に於て、圖書費に削減を加へられ
た爲、豫定書籍の購入が出来なくなつた
のは残念である、しかし、石炭文庫充實
は可成早くしたいと思ふし、若し石炭に
關する本を御所藏の方で、若し不要の向
があればどうか本館に寄贈願ひをして研
究家の爲に開放致したい」

と花田氏も語られた、我々も誠に同感で、
會員炭坑の中に、もし、石炭に關する本で
不要のものがあれば、何によらず若松石炭
文庫に寄贈をお願いする次第である。

同文庫の中に、日本炭礦志 たる一冊があ
つた、著者は石炭鑛業組合囑託員、高野江
基太郎氏 明治四十一年九月二十五日の出
版で古いものであるが、石炭の發掘の沿革
から説き起し、徳川時代に於ける採掘状況
なども相當詳しく述べられてあり、更に又

明治末年の石炭山の狀態等、今日より見て
誠に興味深い且つ貴重なるものである。
石炭文庫に就いては後日機會を改めて述べ
たいものと思つて居る。



本會記事

重役會並に理事會

一月十五日午後一時より本會々議室に於て開會、武内、
末吉、山本、藤井、金丸、三崎各取締役、橋上、田籠各監
査役西本、和才兩理事出席。藤井取締役議長席につき、東
京出張所に駐在事務員を派遣する件其他重要事項を協議し
三時散會した。

因に東京出張所駐在事務員は吉賀庶務係員が派遣され事
務所は東京市麴町區丸ノ内二ノ六三菱東九號館金丸鑛業株
式會社内に置くことに決定した。

出席者

大隈驛長木野福太郎 上山田驛長戸畑甚内 下山田 山
田彌右衛門 碓井 欠席 山田炭鑛松尾、木城炭坑篠塚
漆生 吉崎 大和 中野 猪鼻立花尻ヶ崎 日進炭鑛三
好 三上、有江 日吉江島 昭嘉 中尾 上山炭坑原田
笹尾 笹尾 靱井靱井 吉成 欠 柳ヶ谷欠
以上十三名

田川部會

一月十六日(月) 於筑鐵本社

出席者

位登炭鑛長尾 新平和炭鑛歲國 豊州 長田 久野 木
下永木 糸飛 吉武 岩鼻 吉田 田中新庄炭鑛永井
術藤炭鑛中村 新田川炭鑛佐藤 眞岡炭鑛永富 新勝田
上村 三矢 佐田 福富 沖村 木原川崎欠 上添田

互助會地方部會

上嘉穂部會

一月十四日(土) 於上山田「大山」

欠 東川崎欠 芳ノ谷欠 平床欠 辻本欠

以上十四名

飯塚部會

一月十七日(火) 於加茂目尾炭礦

出席者

加茂目尾炭礦加茂 新山野炭礦杉野 筑前 岩山 第一
山野玉井 幸袋 中山 相田 椋本 庄司 植田 佐興
欠 鎮西 欠 新潤野 欠 大黒 欠 以上七名

西川部會

一月十八日(水) 於芦屋山鹿屋

出席者

西川一礦安永 新目尾炭礦落合 西川二礦丸井 吉田
吉田 神田炭礦友井 別府 松尾 海老津 木原 森中
欠 白山 欠 朝町 欠 池野村 欠 江藤 欠
以上七名

遠賀部會

一月十九日(木) 於香月松ノ家

唐津 九〇
伊萬里 一、六〇

岩崎炭礦中津 新高江炭礦山鹿 新木屋瀬 安武 末吉
繩手 新手 林 大隈 金子 山浦 上綱 高谷 平
島林田 宮ノ下 星野 高松二坑欠 新山部 欠 本
山部炭礦欠 埴生 欠 高江 欠 以上十名

互助肥前支部諸行事

一、西九州海運業組合と協議會開催

昨年十二月十八日發會式結成終了の西九州海運業組合に於ては、互助會肥前支部と緊密なる連絡協調の下に、自治統制の強化に邁進しつゝありしも、今回一月十二日本年度初協議會を開催、支部としては、支部長、各理事及び船舶交渉委員の決議を以て、安西主事前記委員代表となり出席種々懇談協議せし結果、從來無統制なりし運賃に對し、一月中の協定標準運賃は若松協定運賃へ左記金額を加算せるものを以て標準運賃と決定せり。

平戸以西 二、〇〇

但し實際運賃とは余りに開きある爲當分の間、過渡期として現行運賃を條件付に認め今後出来るだけ右標準運賃に一日も早く一致せしむる様、互助會員、海運組合員共に協力する事を申合せた。

一、第三回支部理事會開催

一月十二日午前十時肥前支部會議室に於て支部理事會開催、吉原支部長、兒玉、小岩(代)各常任理事、角口、麓、後藤(代)各理事、高橋大伊萬里專務、互助會側安西、須藤出席左記議案を審議せり。

第三回支部理事會議題

- 一、需要供給豫想ト四月―九月不需要期對策ノ件
- 一、勝田、第二大岳炭礦ニ關スル件
- 一、相談役ニ關スル件
- 一、收支決算報告ト豫算作成ノ件
- 一、西九州海運業組合ト協議會ノ件
- 一、其他重要事項

一、第三回總會開催

昭和十四年一月十五日午後一時佐世保市いるは樓に於て互助會肥前支部第三回總會開催。

吉原支部長、兒玉常任理事、角口、麓、進野(代)各理事高橋大伊萬里專務、法師山、佐田榮次郎、佐田作一、小代熊吉、荒木、佐々木、針尾、中島、木村の各會員、互助會側安西、須藤、早田、高橋並びに本部より鐵鋼材係淺川出席左記議案を審議せり。

第三回總會議題

- 一、需給豫想ト海外向移輸出ノ件
- 一、四月―九月不需要期對策(裾物ノ件)トシテノ東邦相ノ浦發電所ニ對スル共同商談ノ件
- 一、相談役設置ノ件
- 一、西九州海運業組合トノ協議結果報告ノ件
- 一、鐵鋼材其他ノ統制ニ關スル件
- 一、豫算決算報告ノ件
- 一、事務所宛書類提出ニ關スル件
- 一、其他重要事項

石炭鑛業權設定

自昭和十三年十一月廿二日
至昭和十三年十二月十四日

福岡鑛山監督局

試掘權設定

登録番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名
福岡 六六〇	嘉穂郡幸袋町	三〇、〇〇〇	直方市知古川上
山口 七三〇	三池郡玉川村縣本縣玉名郡平井村	五〇、〇〇〇	福岡市住吉町
山口 七三〇	厚狹郡船木町船木町高千穂町厚狹町	四三、〇〇〇	宇都市東區琴芝
山口 七三〇	美濃郡東郷村大津郡三隅村萩市	六六、〇〇〇	大連市連鏡街心齋橋通
山口 七三〇	豊浦郡豊田中村殿居村	八〇、〇〇〇	下關市岬之町
山口 七三〇	同郡豊田村美濃郡西原保村	八五、七〇〇	山口縣厚狹郡小野田町
山口 七三〇	同郡豊田村美濃郡西原保村	九四、〇〇〇	福岡市船津町
山口 七三〇	藤津郡鹿島町濱町並二海面	三〇、〇〇〇	同 町
山口 七三〇	西松浦郡東山代町長崎縣北松浦郡今福町	六二、〇〇〇	同 町
山口 七三〇	杵島郡福富村白石町北有明村	六二、〇〇〇	同 町
山口 七三〇	同郡龍王村藤津郡鹿島村鹿島町	六五、〇〇〇	同 上
山口 七三〇	糟屋郡新宮村和白村	六三、〇〇〇	大阪府中河内郡布施町
山口 七三〇	企救郡曾根町	八五、〇〇〇	東京市麹町區内幸町一丁目
山口 七三〇	三池郡銀水村地先海面開村地先海面山門郡	九六、〇〇〇	小倉市鍛冶町
山口 七三〇	大和村地先海面開村地先海面山門郡	五二、〇〇〇	同 上
山口 七三〇	山門郡兩開村地先海面	五二、〇〇〇	同 上

佐賀 三三三	藤津郡大浦村地先海面	九六、〇〇〇	佐賀縣小城郡北多久村	吉岡 通隆
佐賀 三三三	同 上	九六、〇〇〇	同 上	同 上
熊本 三三三	菊池郡水源村龍門村大分縣日田郡上津江村	五五、〇〇〇	佐世保市上祇園町	山田 德裕 外一人
熊本 三三三	西彼杵郡小柳村並二海面伊王島村地先海面	九五、〇〇〇	長崎縣西彼杵郡高島村	末 綱 德 吉
熊本 三三三	天草郡佐津村本渡町	六四、〇〇〇	佐世保市上祇園町	山田 德裕 外一人
熊本 三三三	北松浦郡世知原村柿木村	三三、〇〇〇	東京市麹町區丸の内二丁目	日本製鐵株式會社
熊本 三三三	同郡柿木村	一四、〇〇〇	同 上	同 上
福岡 六六〇	糟屋郡多々良村地先海面箱崎町地先海面	五三、〇〇〇	福岡市極樂寺町	中 島 德 松
福岡 六六〇	糟屋郡志賀島村並二海面	八二、〇〇〇	和歌山市小松原通七丁目	南 俊 一
福岡 六六〇	西彼杵郡長興村	九四、〇〇〇	東京市麹町區丸の内二丁目	松浦炭鑛株式會社
福岡 六六〇	糟屋郡志賀島村並二海面	五三、〇〇〇	同 二丁目	新望銅山株式會社
福岡 六六〇	糟屋郡香椎村和白村並二海面	五三、〇〇〇	宇都市沖字部	張 永 正 市
福岡 六六〇	杵島郡若木村小城郡西多久村	八五、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	草場 淺一 外一人
福岡 六六〇	小城郡牛津町三日月村小城町	八〇、〇〇〇	福岡市春吉	小 森 半 次
福岡 六六〇	神崎郡三田川村	九二、〇〇〇	杵島郡武雄町	山 口 峰
福岡 六六〇	同郡西郷村仁比山村神崎町	九三、〇〇〇	同 上	同 上
福岡 六六〇	同郡西郷村佐賀郡保泉村	九六、〇〇〇	同 上	同 上
福岡 六六〇	西松浦郡南波多村大川村	九七、〇〇〇	福岡市西職人町	山 崎 和 三 郎
福岡 六六〇	佐賀郡金立村春日村高木瀬村	九七、〇〇〇	同 上	同 上
福岡 六六〇	同郡久保泉村金立村神崎郡西那村	九七、〇〇〇	同 上	同 上

長崎 〇〇七	南高来郡土黒村地先海面佐賀縣藤津郡大浦	〇〇七	同	上	
〃 〇〇八	村地先海面	〇〇八	同	上	
佐賀 〇〇九	南高来郡土黒村地先海面	〇〇九	同	上	
〃 〇一〇	西松浦郡大川村	〇一〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口	峰



炭界日誌

才津原生

- 十二月十六日(金) 晴
 - △昭和石炭株主總會 當期利益金處分案並に定款變更の件を承認す
 - △鑛業法改正委員會にて鑛害賠償規定要綱を決議す
- 十二月十七日(土) 曇後 晴
 - △炭山に於ける人の配給に備へ國營職業紹介所の陣容整ふ
- 十二月十八日(日) 雨後晴
 - △直方に日滿技術工養成所設立計畫成る
- 十二月十九日(月) 晴
 - △鑛山機械配給統制協議會は本日、本年度最終協議會を開催、中古品も調節する申合せを強調す
- 十二月二十日(火) 晴
 - △筑豊線本日石炭輸送は六萬六千噸に達し最高記録を示す
- 十二月二十一日(水) 晴
 - △石炭運賃は依然跛行状態のまゝ推移す
- 十二月二十二日(木) 晴
 - △ヨークス原料炭販賣會社大阪に設立の運びとなる
- 十二月二十三日(金) 曇時々晴
 - △滿鐵苦心の配車により、北支の石炭難稍解消さる
- 十二月二十四日(土) 曇
 - △日産化學工業會社高松炭坑より若松市二島に到る石炭輸送専用トンネル計畫發表す
- 十二月二十五日(日) 曇小雨
 - △若松沈没炭入札は各炭共に高値落札さる
- 十二月二十六日(月) 晴
 - △本會評議員稲員眞一氏逝去
- 十二月二十七日(火) 晴
 - △本社三崎重役夫人母堂ツギ子刀自逝去

十二月二十六日(月) 曇

△本會系輸出襪物炭十二艘の中文可號(六千噸)若松出帆す

十二月二十七日(火) 曇

△有効なる統制と相俟つて、石炭需給關係圓滑となり、年内は順調に推移する見込立つ

十二月二十八日(水) 曇時々雪

△九州採炭第六回株主總會、利益配當措置となる

十二月二十九日(木) 晴

△宇部窯素石炭液化に乗出す

十二月三十日(金) 晴

△神戸石炭商同業組合創立四十周年記念事業として大貯炭場建設に決定す

十二月三十一日(土) 晴

△鑛業報國運動をして効果あらしむる爲、福鑛局に於て新春を期し、鑛業報國聯盟結成の豫定

昭和十四年

一月一日 四方拜 (曇)

△本社武内專務、各紙に石炭需給に關する論説を發表す

一月二日(月) 晴

△朝鮮無煙炭の産出昨年八十萬噸に達す

一月三日(火) 晴

△撫順炭の日鐵以外の内地送りは當分中止となる

一月四日(水) 晴

△福鑛局管内に於ける炭山爆發回數前年より減少す

一月五日(木) 曇時々雪

△朝鮮に於ける豆炭煉炭用原料炭の不足傳へらる

一月六日(金) 曇

△日滿石炭液化會社、新京に設立計畫發表さる

一月七日(土) 曇

△石炭の規格販賣を政府に於て許可の見込立つ

一月八日(日) 曇

△飯塚に産業労働行政研究会誕生、先づ、炭坑稼働者移動の根本原因究明に乗出すことに決定す

一月九日(月) 曇

△福鑛局後援の下にやまびこ運動具体化する

職業技能程度申告標準

國民登録申告の際に於ける技能程度の標準の中關係の分を擧げると左記の通りである。

採炭夫

一級、次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スルモノ

一、坑内ノ安全ニ付テ必要ナル知識ヲ持ツテ居ルコト

二、採炭作業ニ従事シ發破作業ガ出來ルコト

三、採炭作業ニ従事シ支柱作業ガ出來ルコト

四、採炭作業ニ従事シ截炭機又ハ穿孔機ノ使用ガ出來ルコト

來ルコト

二級、一級ニ達シナイ者

(備考) 採炭ノ手傳ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

二月十日(火) 晴

△コークス統制會社の株式引受終了し、愈その体制調ふ

一月十一日(水) 晴

△筑豊技術談話會、宇部炭業界を視察す

一月十二日(木)

△豆炭、煉炭寒冷と共に好況を呈し値崩れの危険去る

△早良炭坑に落磐あり、坑夫三名死傷

一月十三日(金) 曇

△大阪石炭協會通常總會

一月十四日(土) 雨

△福鑛局近く飯場制度徹廢命令を出すことに内定す

一月十五日(日) 晴

△午後一時より、本社會議室にて重役會開催、本會東京出張所設置の件其の他を承認す

△本會相談役理事高野喜六氏逝去



互助會文藝

俳句

選者 琴月園雷鳴雲宗匠

課題 初空。初御空。初東風。初風。御降。書初。筆初。試筆。吉書。

出炭報國坑口に太く試筆かな
初空を仰ぎ明るき心かな
初空やまた明けきらぬ星の色
學童の天神山と試筆かな
初東風や海から受けて樹々朗ら
初東風や童よるこぶ風日和
御降の晴れてはためく國旗かな
御降に後ばねかけし晴衣かな
健康をみそぎで拜す初御空
御降に賑かとなる炬燵かな
御降と云ふ間に晴れて旗日和

(眉山)
(由起世)
(眉山)
(古雀)
(由起世)
(眉山)
(清風)
(古雀)
(清風)
(古雀)
(清風)

初東風の濱に漁船を熾ひし
白髯をなで、白兔の吉書かな
初御空社頭大杉鬱として
御降に竹林莊はもの静か
御降に車夫待つてゐる下乗札
御降や黙々として仰ぐ空
御降に裸行者のみそぎかな
初空や川筋白く茜引く
初東風になびく御旗の國威かな
雲一点なき初空や大氣澄む
初空や静けさ破る初鴉
御降に粧ひ風致見更へけり
御降りに引締りたる輪注連かな
初御空東方仰き遙拜す
初東風や掃き淨めたる大玄關
初東風や幣新たらしき宮柱

(響洋)
(古雀)
(由起世)
(響洋)
(眉山)
(由起世)
(古雀)
(響洋)
(清風)
(眉山)
(響洋)
(全雀)
(全雀)
(全雀)
(響洋)
(全雀)

拾内

朝陽の鳥に映する試筆かな
感激の儘の試筆の雄偉さよ
失敗を筆陣にして試筆かな
大鱈の蔽を外すや初東風す
初御空銀翼つらね編隊機
書初や鍛錬しめす鴛堂流
初東風軒場なぶればゆる、注連
大壁紙朱竹の試筆異彩あり
戦勝に因む試筆の慰問かな
初空や海から明けて島豊

(響洋)
(由起世)
(武夫)
(由起世)
(一風)
(晴風)
(武夫)
(響洋)
(全人)
(福助)

天位

大君の御稜威仰ぐや初御空

選者加吟

初御空御稜威に明けし大八洲
海面に茜さしけり大御空
忠孝と孫に手持ち添へ試筆かな
寄せ書の試筆慰問に送りけり
初東風に弾き初めにけり松の琴
初東風の禮者の晴衣なぶりけり
御降に社頭の松の雅びかな
御降を押して銃後の神詣で

(一風)
鳴雲

川柳

選者 雷鳴雲先生

課題 新歸朝。提灯

うどん屋の提灯太く酒肴
町會は寄らず提灯のみ下り
ひくき鼻高々として新歸朝
博士種仕入仕込んで新歸朝

(古雀)
(春花)
(古雀)
(全人)

人位

御降に三社詣での汽車はこむ
初東風に胸毛吹かせて駕籠浮ぶ
御降や社頭雅びて清々し
初東風や社頭に幟りきしる音
初東風やや戸毎になびく旭の御旗

(古雀)
(清風)
(眉山)
(眉山)
(福助)

地位

初東風や大廣前の幣ゆる、
筆太く天壤無窮と試筆かな

(由起世)

戦勝の日の丸提灯旗の波
 花柳街紅提灯で客を吊り
 新歸朝赤ネグタイのウオカリスト
 地藏盆供佛の提灯曳りを附け
 當分は詰襟で來ず新歸朝
 國訛り英語もまじり新歸朝
 提灯に低頭をする寺の前
 新歸朝株の下りを先に聞き
 裸体畫の繪葉書買つて新歸朝
 新歸朝しても三鞭酒は呑める
 尋ねあぐんで提灯露路で焼け
 新歸朝朝日敷島が吸へる
 提灯の奉祝の二字に襟正し
 いにしゑは月夜に提灯警者坊主
 盆提灯飾れば飾る程淋し
 大火災高張提灯込んでゐる
 提灯の右往左往の火事見舞
 停電に提灯出せば蜘蛛のえは
 込合ふて師走の汽車で新歸朝

(呑空)
 (全人)
 (一雷)
 (呑空)
 (一雷)
 (古雀)
 (全人)
 (呑空)
 (呑氣坊)
 (一雷)
 (呑氣坊)
 (全人)
 (一雷)
 (全人)
 (春花)
 (一雷)
 (呑氣坊)

呼歸朝提灯揺れる方へ揺れ
 新歸朝謀長殿の腕の牙へ
 人位
 蹴躓まずく花道提灯ふるえて居
 地位
 無提灯叱る巡査の國訛り
 天位
 聖戰の参加に燃えて新歸朝
 選者吟
 雷鳴雲
 おりからの提灯借りの遺失物
 朝日でもバットでも吸ふ新歸朝
 提灯が尻押をする大三十日
 新歸朝マダムの料理賞めて食ひ
 お巡りの叱り居る車夫無提灯
 新歸朝叫し葉卷の煙むに巻き
 自由婚提灯釣鐘程ちがひ
 新歸朝ドクトルとあり開業醫
 新歸朝先づぶぐちりに舌鼓み
 三國の提灯消へりや蔭は闇

(呑氣坊)
 (呑空)
 (一雷)
 (呑氣坊)
 (呑空)
 (呑空)

五 客

和 歌

選者 三輪則一氏

課題 羽子。試筆。島煙

書初めの筆さばきよし何となく
 ことしの幸の思はるゝかな
 かくてこそやまとおみなぞ我妻は
 書初めの字を持久とえらびぬ
 くれてゆく濱邊に一人たゝずみて
 島の夕餉の煙をぞみる
 わかゝりし日の思ひ出やわきつむ
 子らにまじりて母も羽根つく
 子寶のひとりく〜に晴着させ
 はこ板もたせ遊びにやりぬ
 朝風の瀬戸の内海こぎくれば
 けふりのたゝぬ島なかりけり

福井清風
 松本武夫
 日吉坑 友成眉山
 日吉坑 一 風
 日吉坑 友成眉山

選者追詠

國民登録技能程度申告標準

炭坑支柱夫
 一級 次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
 一、坑内ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテ居ルコト
 二、取替作業ガ出來ルコト
 三、捲取作業ガ出來ルコト
 四、坑道枠作業ガ出來ルコト
 五、充填(パツキング)作業ガ出來ルコト
 二級 一級ニ達シナイ者

編輯後記

支那事變勃發以來茲に一年有半、其間無敵皇軍の占領したる全域は、まさに皇國版圖の二倍に達して、その戦線の延長は實に北支中支に於て二千五百七十五軒に及び、南支方面に於て四百二十五軒にわたる。

前者は歐洲大戰當時の西部戦線に比して約四倍、後者は日露戦役に於ける奉天附近の戦果を遙かに凌ぐといふ前古未曾有の戦果をあげ、今や新春と共に長期戦体制下に於ける東亞新秩序建設の大理想は着々進められつつある。

去る十五日本會議室に於て、重役會理事會開會中に、本會相談役兼理事高野喜六氏が博多より歸宅の途中汽車中にて急病の報に接し間もなく急逝せられたので、末吉、

金丸兩重役が取り敢へず弔問し、二十日午後二時より飯塚市高野邸横の廣場に於て、本社相談役中島徳松氏、櫻ビル専務林博氏、末吉、金丸、三崎各本社重役初め朝野の士多數参列して盛大な告別式が執行された。

茲に謹んで哀悼の意を表す。

本誌新年號は、山本重役の勅題「朝陽映畫」の口繪、柏村福岡鑛山監督局長、野上會長、武内理事、大島工學博士の年頭の辭や石炭關係の有益な記事を満載し得たこと、を讀者諸賢と共に感謝し、毎號御投稿を願つてゐた文藝欄は、業界關係記事が漸次増加しつつあるので、遺憾ながら本號限りで二月號からは掲載しないことに致しましたから、悪しからず御諒解願ひます。

(一月廿四日 才津原生)

互助會報・第四卷・第一號

購 一冊 金參拾錢 郵税共
半年分 金壹圓八拾錢同上
一年分 金參圓六拾錢同上
料金は前金の事

昭和十四年一月十七日印刷納本
昭和十四年一月二十日發行

若松市本町二丁目

石炭鑛業互助會

發行人 風戸 道康

編輯人 若松市堺町三丁目

印刷人 吉田 万造

若松市堺町三丁目

印刷所 吉田印刷所

電話 六五二番

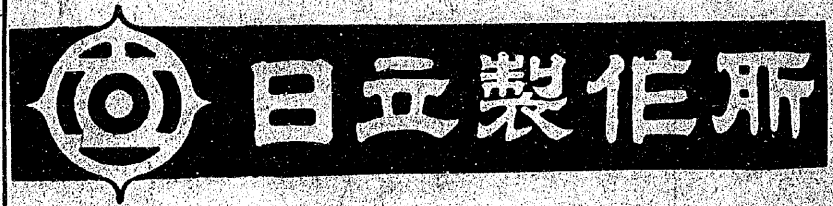
若松市本町二丁目

發行所 石炭鑛業互助會

電話 長三四七
七〇六七一
九一六
番番番

鑛山用諸機械

コ	捲	ド	ピ	送	ポ	歴
ー		リ	ツ			
ル	揚	ル	ク	風	ン	
カ		シ	シ			
ツ		ャ	ャ			
タ	機	プ	プ	機	ブ	機
ー		ナ	ナ			
		ー	ー			



東京丸ノ内・福岡市天神町

昭和十三年四月七日第三版印刷
 昭和十四年一月二十日發行
 石炭鑛業互助會報 發行所 茨城市本町二丁目 石炭鑛業互助會